

# 防災指針について

---

令和 5 年 8 月 23 日

# 目次

---

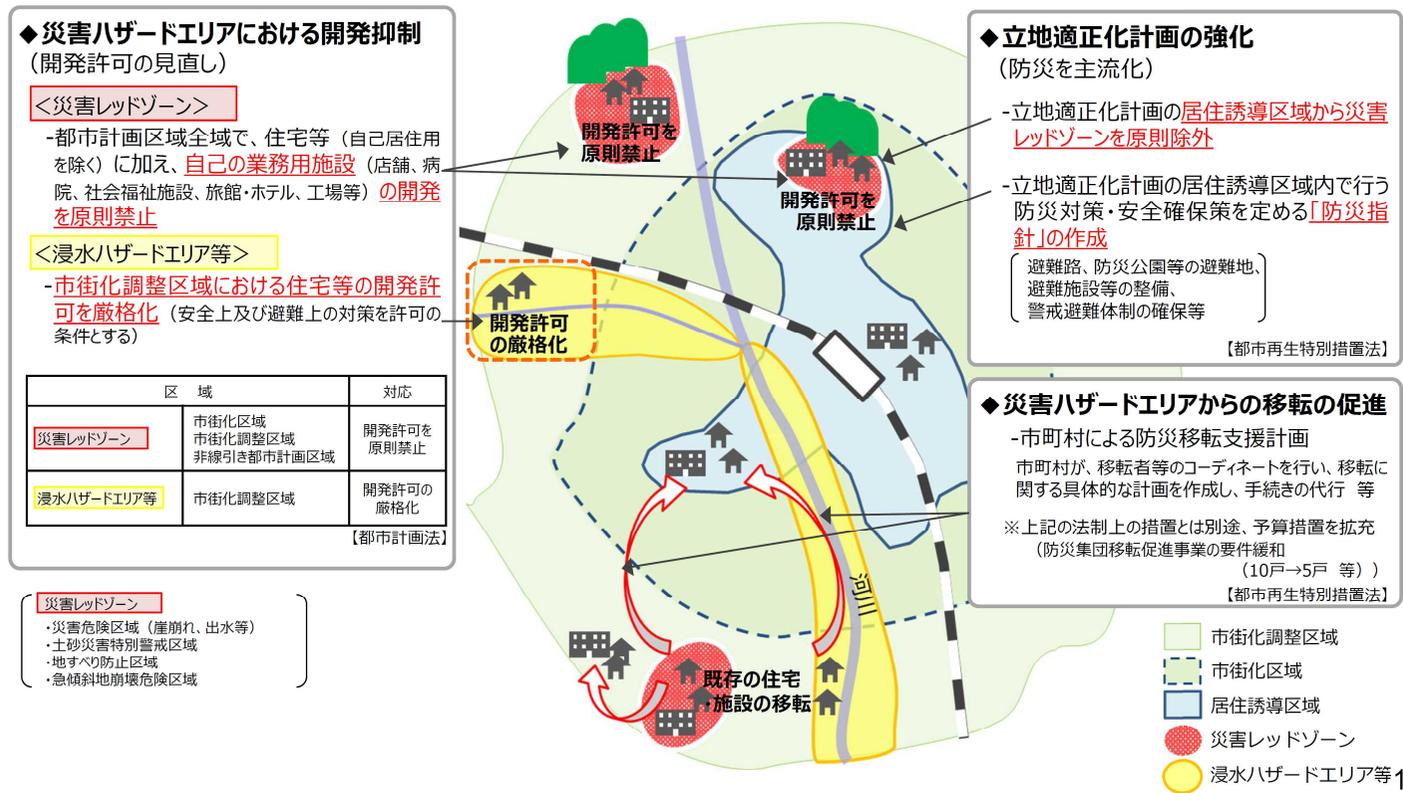
1. 防災指針の概要 . . . . . 1
2. 防災指針の基本的な考え方 . . . . . 7
3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】 . . . . . 15
4. まちづくりにおける防災上の対応方針 . . . . . 28
5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた  
取組方針・具体的な取組 . . . . . 29
6. 防災指針における目標値 . . . . . 37

# 1. 防災指針の概要

## (1) 防災指針の作成

- 2020年（令和2年）6月に都市再生特別措置法等が改正され、頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける開発抑制・移転の促進、立地適正化計画の強化（防災指針の作成）などが位置づけられました。

### ■ 令和2年6月の都市再生特別措置法等の改正概要



出典：国土交通省「水災害対策とまちづくりの連携」（令和2年9月16日）

# 1. 防災指針の概要

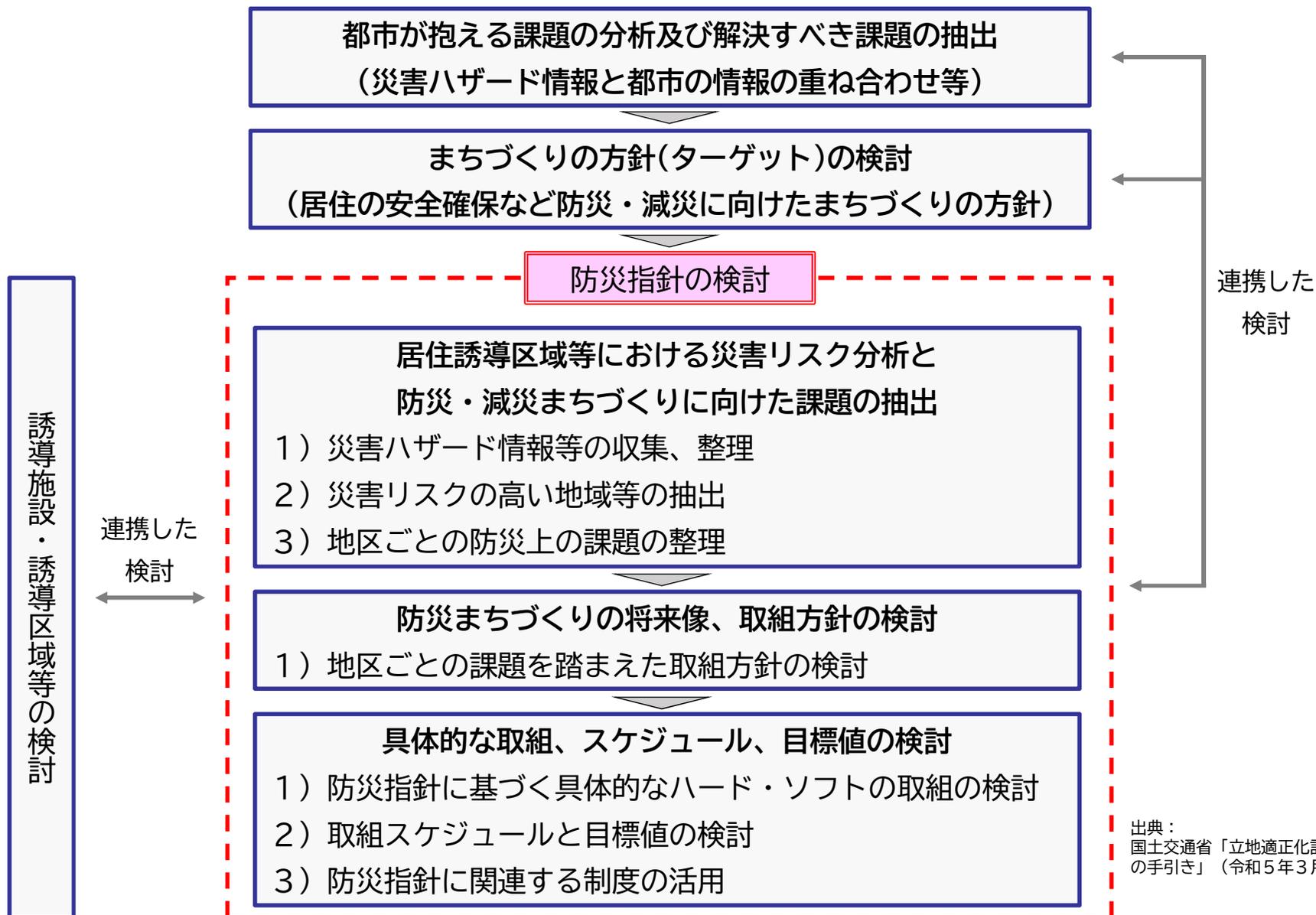
---

## (1) 防災指針の作成

- 防災指針は、**居住促進区域**にあつては**住宅**の、**都市機能誘導区域**にあつては**誘導施設の立地及び立地の誘導**を図るための「**都市の防災に関する機能の確保に関する指針**」です。
- 防災指針の作成にあつては、防災部局などが保有する災害リスク情報と都市部局が保有する都市計画情報を重ね合わせるなどにより、**都市の災害リスクの「見える化」**を行うなど、**各都市が抱える防災上の課題を分析の上、防災まちづくりの将来像や目標などを明確にし、ハード・ソフトの両面からの安全確保の対策を位置づける必要があります。**

# 1. 防災指針の概要

## (2) 防災指針検討のフロー

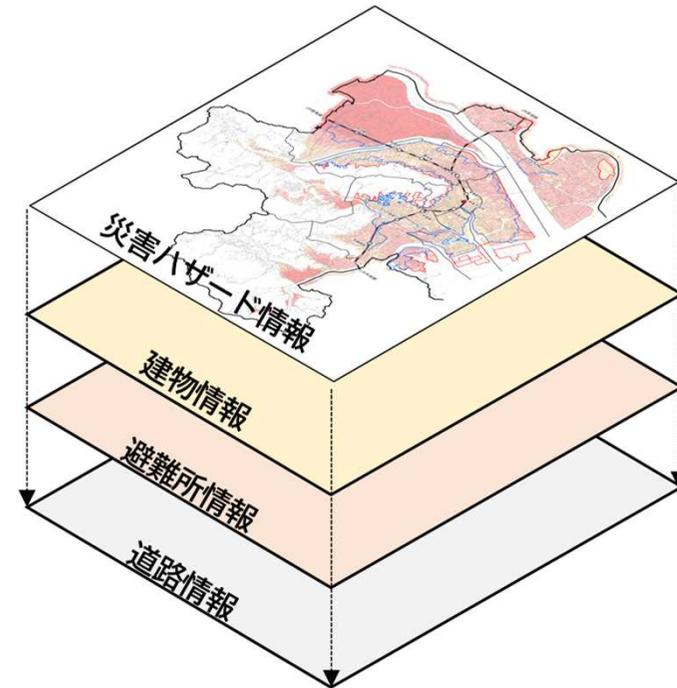


# 1. 防災指針の概要

## (3) 防災指針作成にあたっての分析・検討方法

- 本市の抱える災害リスクについて、**全市的な視点の「マクロ分析」と地域・地区レベルの視点の「ミクロ分析」**を行います。
- ミクロ分析では、**災害ハザード情報と都市情報をGIS上で重ね合わせ分析**をすることで、災害リスクの高い地域・地区の抽出を行います。

■GISによる重ね合わせ分析のイメージ



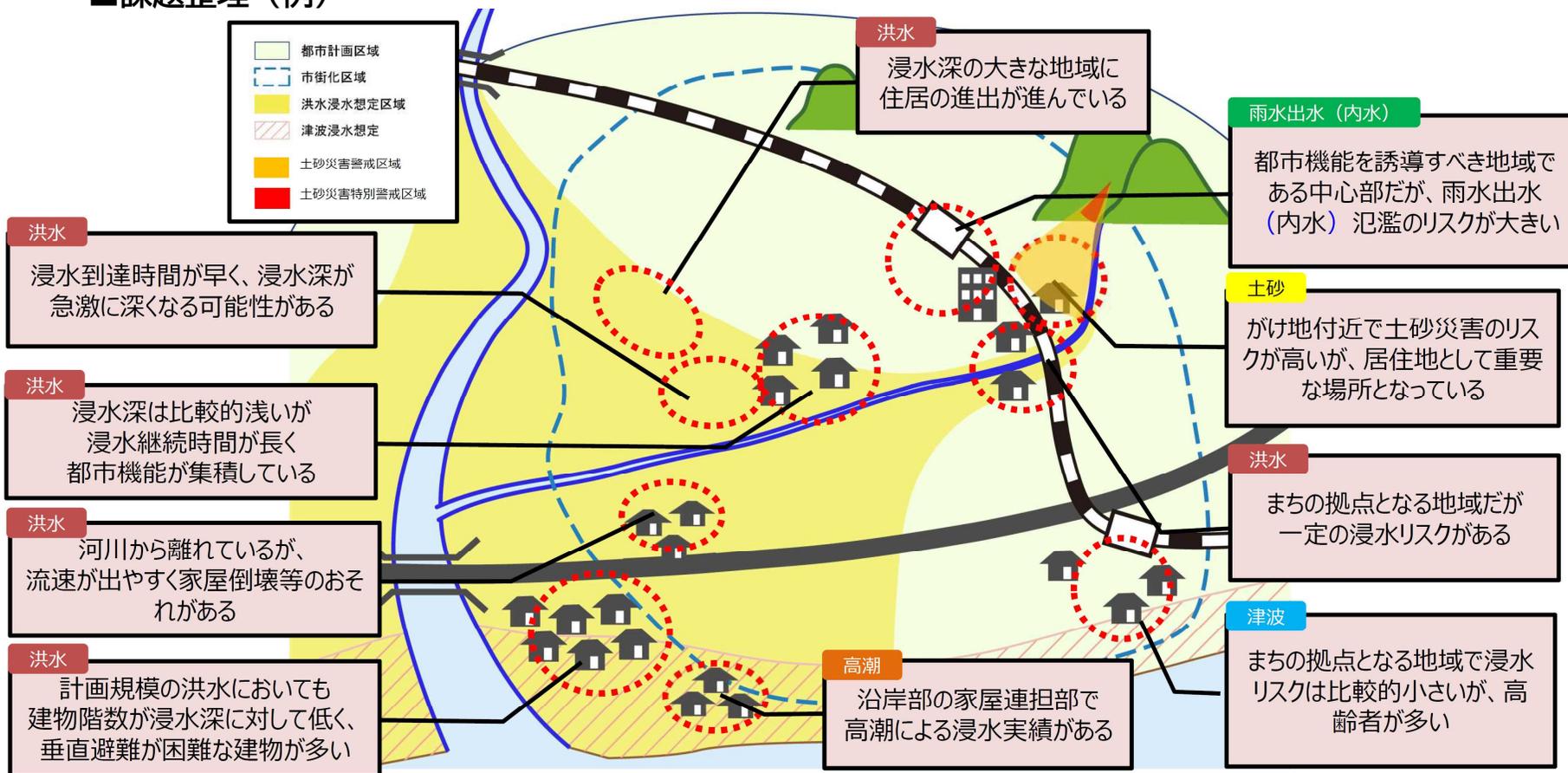
分析方法	備考	分析の視点
マクロ分析	市全域	全市的な視点で、ハザードの広がり方や地形的特性を定量・定性的に分析
ミクロ分析	地域・地区レベル	まちの成り立ちや地域コミュニティ、河川の流域等を考慮し、市全域を地域・地区ごとに分割し、災害リスクを分析

# 1. 防災指針の概要

## (3) 防災指針作成にあたっての分析・検討方法

- 災害リスクのミクロ分析の結果から、具体的にどのような被害が想定されるかなどを確認し、地域・地区ごとに課題を整理し、必要となる取組方針を決定します。

### ■課題整理 (例)



# 1. 防災指針の概要

## (3) 防災指針作成にあたっての分析・検討方法

- 地域・地区ごとの取組方針に基づき、**ハード、ソフト両面から災害リスクの回避、低減に必要な具体的な取組について記載**します。
- また、具体的な取組の実施にあたっては、取組方針において設定された目標に向けて計画的に対策の進捗を図る必要があり、目標年次に至るまでの、短期（概ね5年）、中期（概ね10年程度）の達成目標についても設定することが考えられます。

### ■取組内容（例）

取組方針と対策の分類	考えられる具体的な取組の例
災害リスクの回避の対策	宅地開発の規制、建物の立地誘導や移転促進 など
災害リスクの低減の対策（ハード）	河川堤防の整備、土砂災害防止のための法面对策 避難路・避難場所の整備 など
災害リスクの低減の対策（ソフト）	浸水時でも利用可能な避難路ネットワークの検討・設定 早期に避難できる避難場所の配置や案内看板の設置 など

### ■取組スケジュール（例）

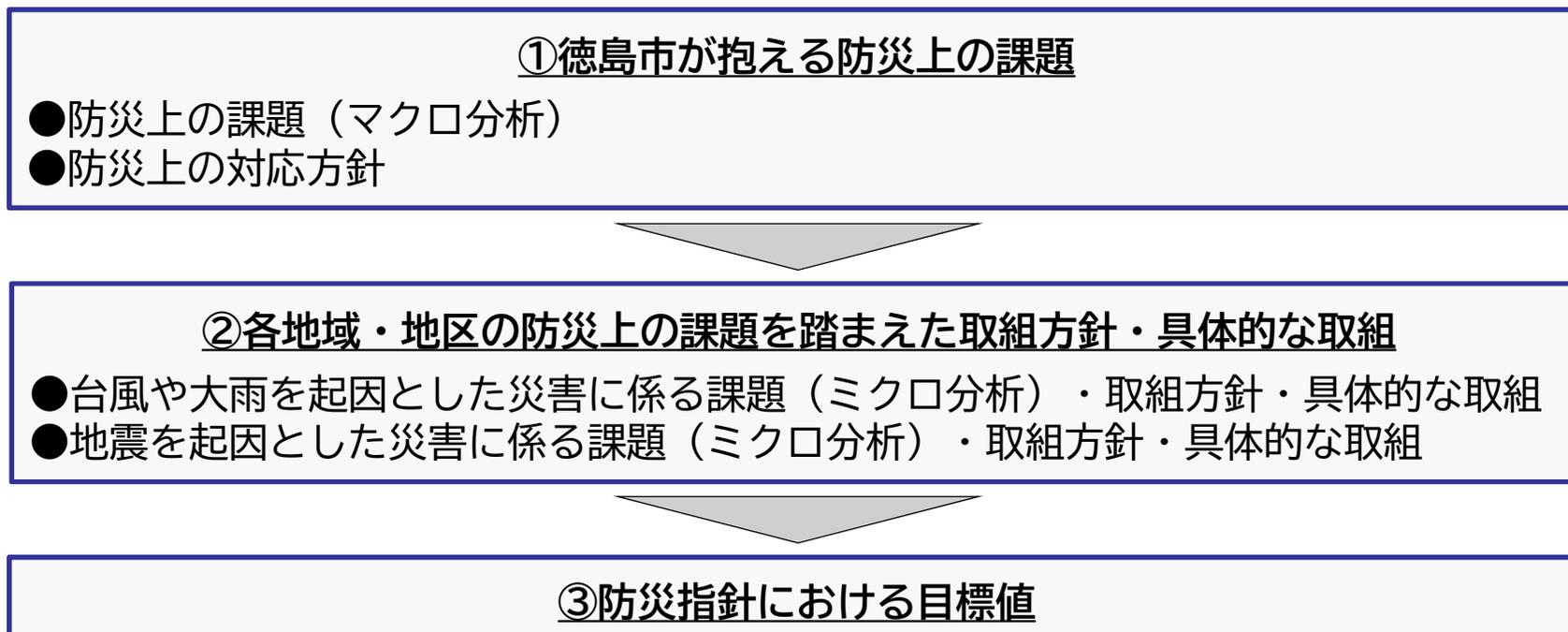
施策		地域	実施時期の目標		
			短期(5年)	中期(10年)	長期(20年)
回避	開発規制	〇〇地域	→		
低減	法面对策	××地域	→		
低減	避難路ネットワークの検討・設定	△△地域	→		

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (1) 防災指針作成の目的

- 立地適正化計画に基づくコンパクトで安全・安心なまちづくりの推進のため、防災・減災対策を計画的かつ着実に取り組むことを目的とした防災指針を作成します。

### (2) 防災指針作成の流れ



## 2. 防災指針の基本的な考え方

---

### (3) 防災指針の位置づけ

- 本市では、「徳島市総合計画2021」や「徳島市国土強靱化地域計画」、「徳島市都市計画マスタープラン」などに基づき、市全域で防災まちづくりに取り組んでいます。
- 水災害については、国・県・市の連携による「流域治水プロジェクト」が策定されています。
- 防災指針は、市全域を対象とした防災関連の取組との整合・連携を図りつつ、居住促進区域及び都市機能誘導区域における居住機能や都市機能の維持・集約を図るための都市の防災に関する方針をまとめるものとします。

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ① 分析の対象とする災害

- 「洪水」「高潮」「土砂災害」「地震」「液状化」「津波」「ため池氾濫」を分析の対象とし、国・県・市の公表資料・オープンデータなどから情報の収集・整理を行います。

I. 台風や大雨を 起因とした災害	洪水、高潮、土砂災害、ため池氾濫
II. 地震を 起因とした災害	地震、土砂災害、液状化、津波、ため池氾濫

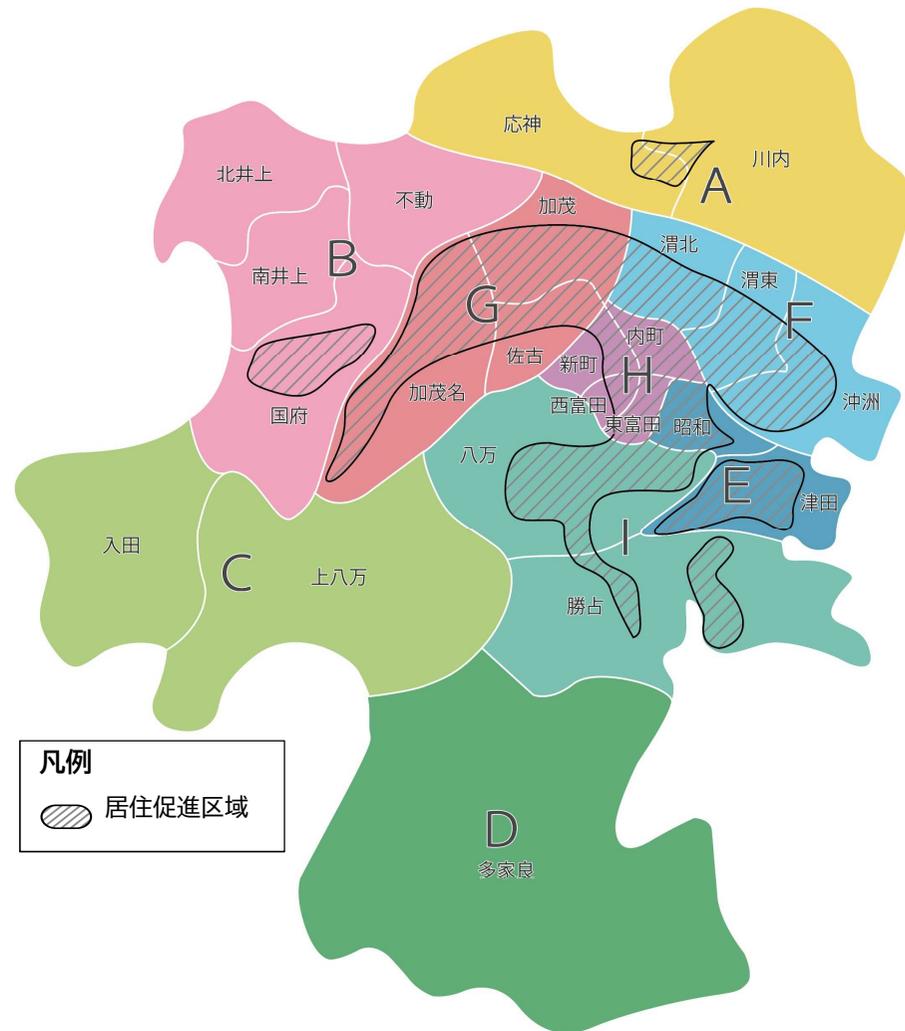
※雨水出水（内水氾濫）は、想定区域を検討中であり、データが揃い次第、分析を実施

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ② 分析単位

- 市全域を対象とするマクロ分析により、**地域特性や災害リスクの状況を俯瞰**します。
- ミクロ分析により、**地域・地区レベルでのリスクを把握**します。
- ミクロ分析の単位は、まちの成り立ちや地域コミュニティ、生活圏、河川の流域などを考慮し、**23行政地区**とします。
- 分析の結果は、徳島市都市計画マスタープランの「地域のまちづくり方針」における**A～Iの9つの地域で整理**します。



## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ③ 分析の対象とする想定規模の設定

分析	分析の対象とする想定規模	備考
マクロ分析	全ての想定規模 (L1、L2、 雨量L2相当の最大ハザード)	—
ミクロ分析	L2、 雨量L2相当の最大ハザード	ミクロ分析では、L2などの最大ハザードを対象としてリスク分析を行うため、洪水浸水想定区域(L1)、平成26年台風12号・11号浸水履歴は対象外とします。

※L1：計画規模（50～150年に1回程度の発生確率）

※L2：想定最大規模（1000年に1回程度の発生確率）

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ④ マクロ分析の分析項目

分析項目	情報
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治水地形分類図</li> <li>・色別標高図</li> </ul>

分析項目	備考	
災害特性	洪水	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浸水履歴（平成26年台風12号・11号）</li> <li>・洪水浸水想定区域【計画規模（L1）】、【想定最大規模（L2）】</li> <li>・家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）【想定最大規模（L2）】</li> </ul>
	高潮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高潮浸水想定区域【想定最大規模（L2）】</li> </ul>
	土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害に関する区域</li> </ul>
	地震	<ul style="list-style-type: none"> <li>・震度分布【南海トラフ巨大地震】</li> </ul>
	液状化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化危険度【南海トラフ巨大地震】</li> </ul>
	津波	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波浸水想定区域【南海トラフ巨大地震 震源モデル】</li> </ul>
	ため池氾濫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ため池浸水想定区域【南海トラフ巨大地震などでため池が決壊した場合を想定（決壊後30分後に到達する区域の最大範囲と最大浸水深）】</li> </ul>

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ⑤ ミクロ分析の分析項目及び分析の視点 (1 / 2)

災害		分析項目		分析の視点
区分	種別	ハザード情報	都市情報	
		<p>浸水 到達時間 (洪水)</p> <p>避難所 緊急輸送道路 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期避難が必要か？</li> <li>・早期に浸水※する緊急輸送道路はないか? など</li> </ul> <p>※破堤又は破堤の危険性の高まりから、住民避難の開始までに情報収集や避難準備などに1時間程度必要とし、破堤後1時間以内の浸水を早期の浸水とする(徳島県(徳永雅彦氏)「洪水に対して安全で迅速な住民避難行動を促進するための情報提供に関する研究」を踏まえて設定)</p>	
		<p>浸水継続 時間 (洪水・高潮)</p> <p>避難所 建物階数 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期に浸水※する避難所はないか？</li> <li>・垂直避難による長期避難が難しい地域はないか? など</li> </ul> <p>※人命救助のタイムリミットとされている浸水継続時間が72時間であることから、浸水継続時間72時間以上の浸水を長期の浸水とする(内閣府「生死を分けるタイムリミット(みんなで作る地区防災計画)」を踏まえて設定)</p>	
		<p>家屋倒壊等 氾濫想定区域</p> <p>避難所 緊急輸送道路 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の徒歩圏※外はないか？</li> <li>・不通となる道路はないか? など</li> </ul> <p>※一般的な高齢者の徒歩圏500mを避難所徒歩圏とする(国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」より)</p>	

I : 台風や大雨を起因とした災害、II : 地震を起因とした災害

## 2. 防災指針の基本的な考え方

### (4) 災害ハザード情報などの収集・整理・分析の進め方

#### ⑤ ミクロ分析の分析項目及び分析の視点 (2/2)

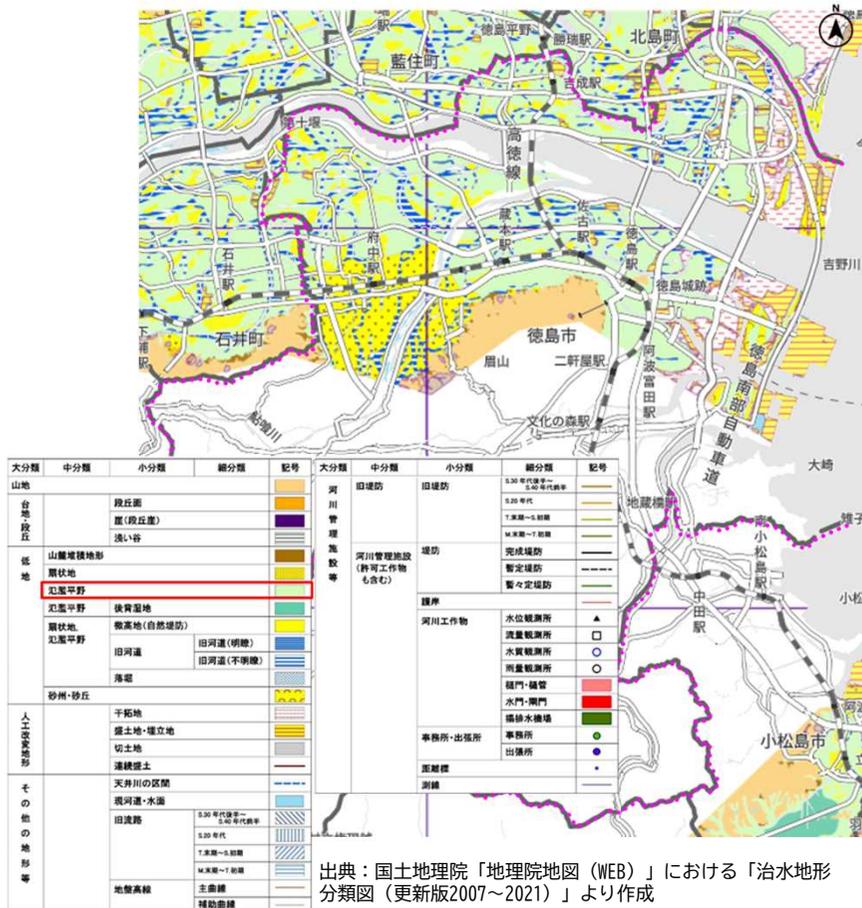
分析項目				分析の視点
災害		ハザード情報	都市情報	
区分	種別			
I II	土砂災害	土砂災害に関する区域	避難所 緊急輸送道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺に避難所はあるか？</li> <li>・ 長期に不通となる道路や孤立する地域はないか？ など</li> </ul>
II	地震	震度分布	旧耐震基準木造建築物 大規模盛土造成地 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倒壊のおそれのある建物はどれくらいあるか？</li> <li>・ 宅地滑動崩落（盛土と地山との境界面や盛土内部を滑り面とする変動現象）の危険性がある、大規模盛土造成地はあるか？ など</li> </ul>
II	液状化	液状化危険度	緊急輸送道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不通となるおそれがある道路はないか？</li> </ul>
II	津波	津波浸水想定区域	建物構造 避難場所や津波避難ビルなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構造被害が発生、流出する木造建築物はどれくらい分布しているか？</li> <li>・ 避難場所や津波避難ビルの徒歩圏外はないか？ など</li> </ul>
I II	ため池氾濫	ため池浸水想定区域	緊急輸送道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不通となるおそれがある道路はないか？</li> </ul>

I：台風や大雨を起因とした災害、II：地震を起因とした災害

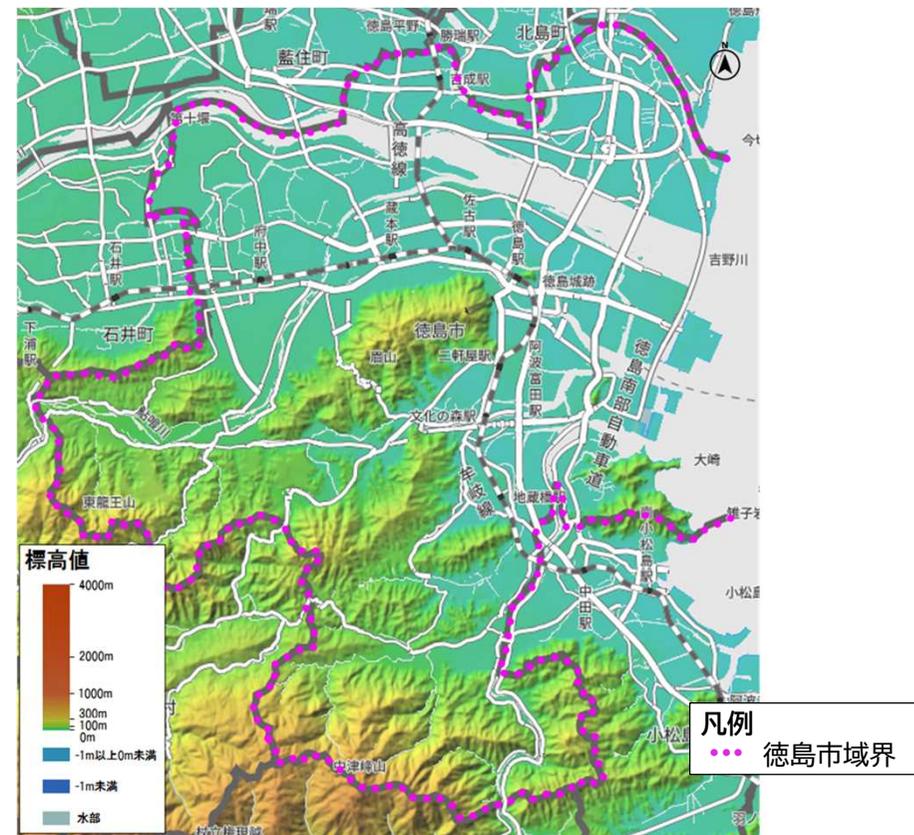
# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (1) 地域特性

- 一級河川吉野川の過去の氾濫で形成された平野上に市街地が形成されているほか、眉山などの山地部を除く本市の大部分は標高の低い地域となっており、豪雨を起因とする被害を完全に排除することは難しい地形条件となっています。



出典：国土地理院「地理院地図(WEB)」における「治水地形分類図(更新版2007~2021)」より作成



出典：国土地理院「地理院地図(WEB)」における「色別標高図」より作成

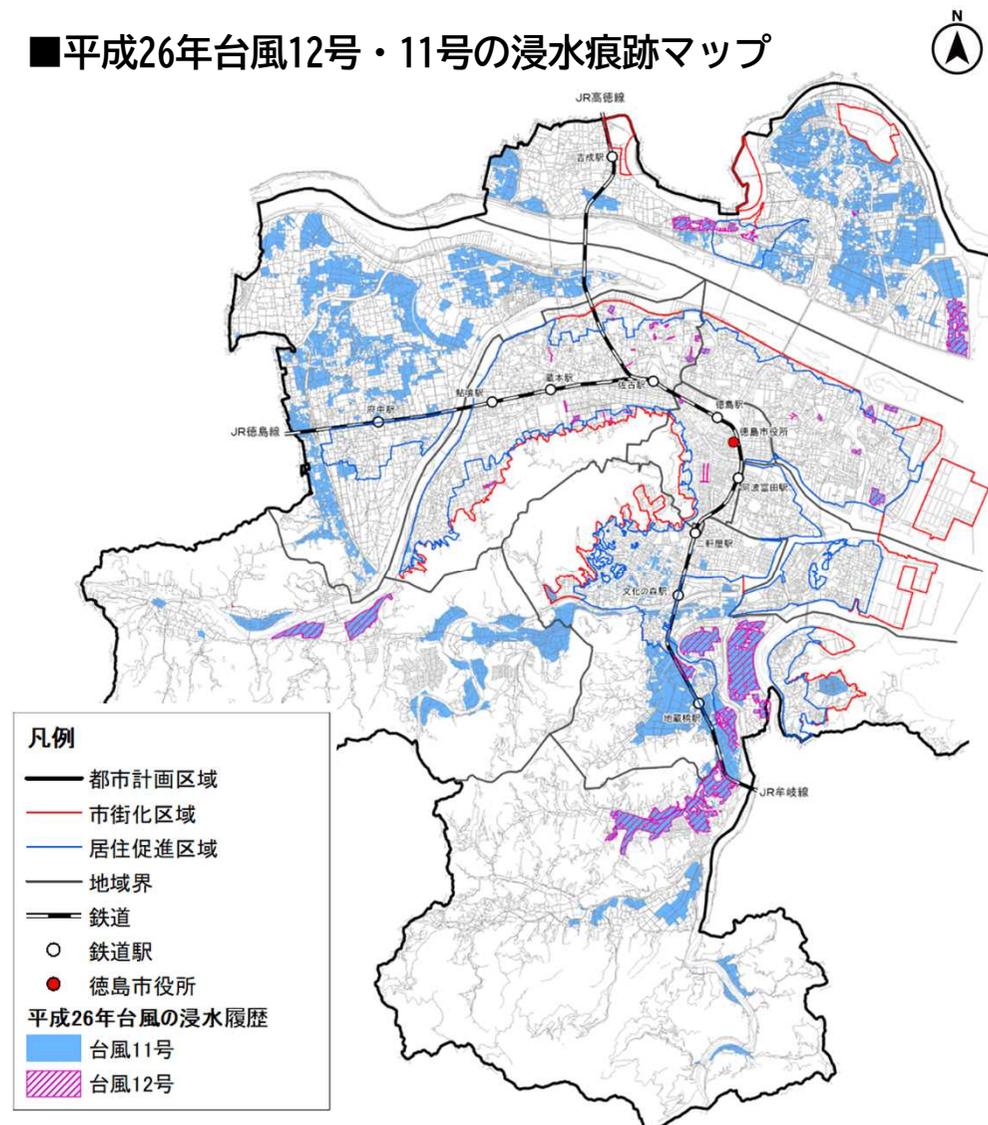
### 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

#### (2) 災害特性

##### ① 洪水：洪水履歴（平成26年台風12号・11号）

- 国土交通省四国地方整備局の報告によると、平成26年台風12号・11号による8月1日～10日の雨量は、徳島県南部で1,500mmを超える雨量を記録しています。  
（参考：徳島県の洪水浸水想定区域の計画規模の降雨条件が「岩津下流域の2日間総雨量440mm」）
- 徳島市の浸水状況を見ると、居住促進区域外のエリアに浸水エリアが広がっています。特に、雑賀町や一宮町、川内町旭野周辺などは、台風11号及び12号ともに浸水しています。

■平成26年台風12号・11号の浸水痕跡マップ



出典：徳島県「平成26年台風12号・11号浸水痕跡マップ」（2015年3月24日）  
※居住促進区域は現行計画の区域

# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (2) 災害特性

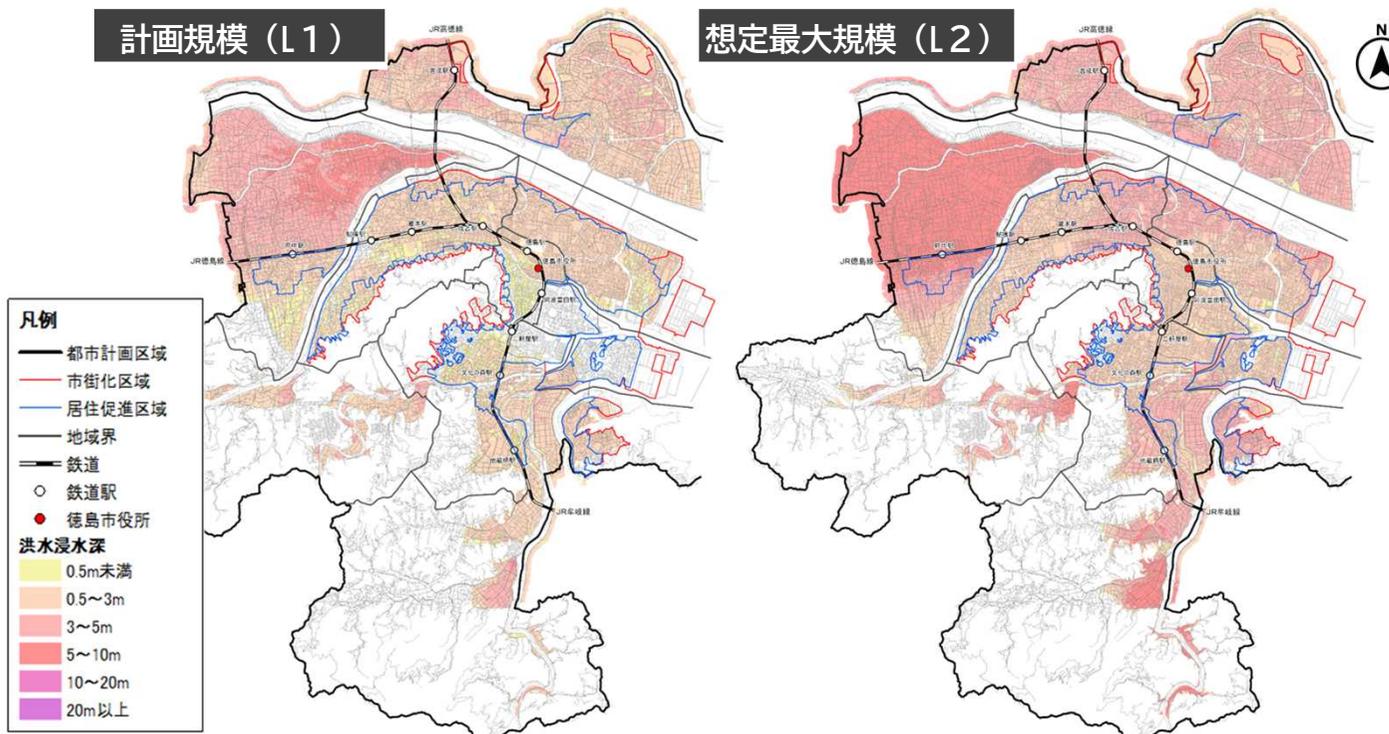
### ① 洪水：洪水浸水想定区域

- L1よりもL2の方が浸水深が大きくなっているのに加え、浸水する範囲も広がっており、一級河川吉野川など、多くの河川がある地勢的な状況から、市全域の約4割が浸水想定区域に含まれています。
- 居住促進区域においては、計画規模では約7割、想定最大規模では約9割が浸水想定区域に含まれています。また、想定最大規模では、垂直避難が困難となる浸水深3m以上のエリアは約3割を占めています。

#### ■ 洪水浸水想定区域の指定状況

計画規模 (L1)

想定最大規模 (L2)



出典：  
 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「吉野川水系吉野川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2016年6月13日）  
 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「吉野川水系旧吉野川・今切川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2016年6月13日）  
 徳島県「勝浦川水系勝浦川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2020年3月27日）  
 徳島県「吉野川水系園瀬川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2018年5月29日）  
 徳島県「吉野川水系飯尾川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2019年8月27日）  
 徳島県「吉野川水系鮎喰川 洪水浸水想定区域図（計画規模・想定最大規模）」（2019年8月27日）  
 ※居住促進区域は現行計画の区域

# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (2) 災害特性

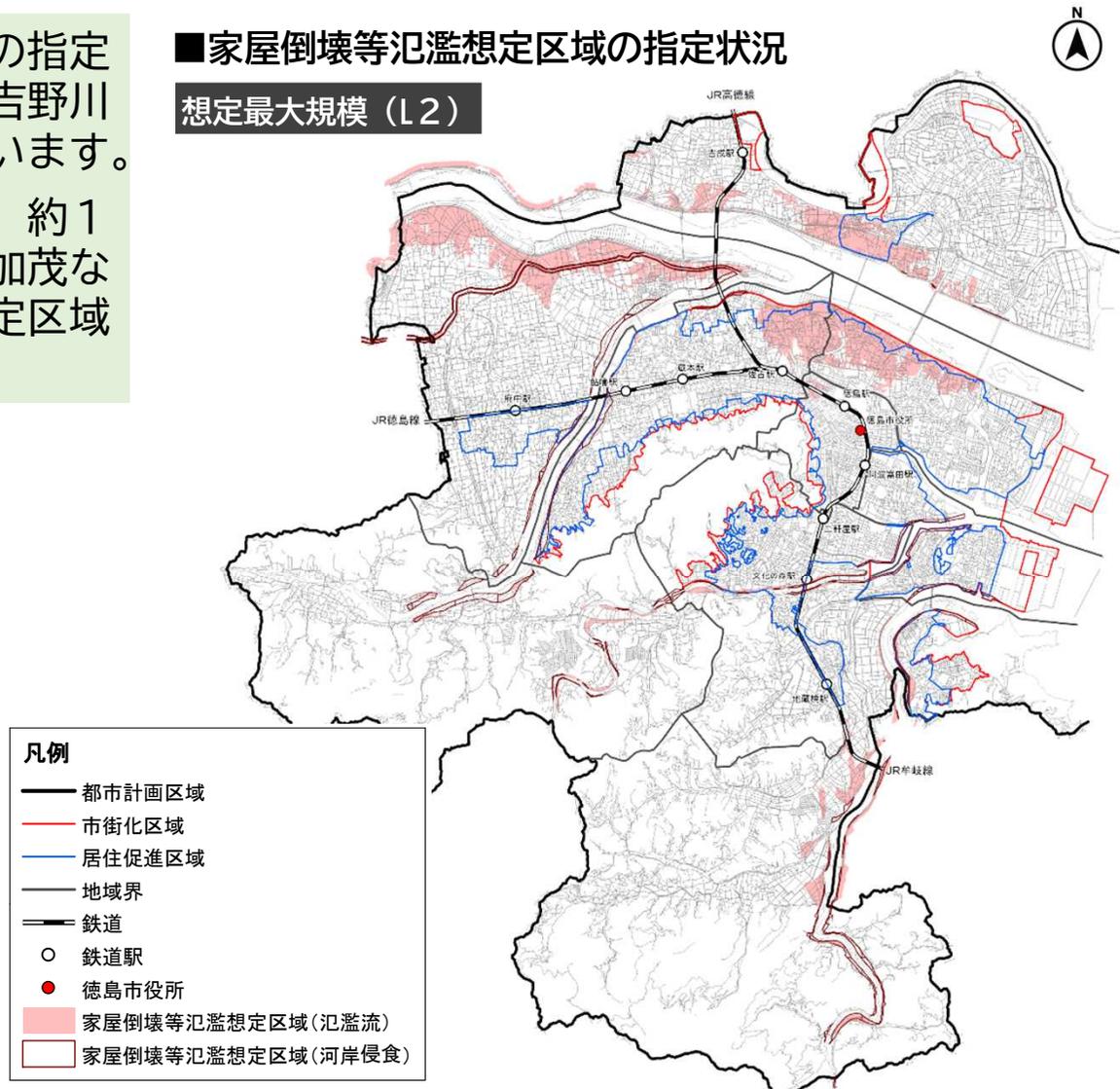
### ① 洪水：家屋倒壊等氾濫想定区域

- 家屋倒壊等氾濫想定区域の指定状況を見ると、一級河川吉野川の沿川に広く指定されています。
- 居住促進区域においては、約1割の区域（応神、渭北、加茂など）が家屋倒壊等氾濫想定区域に含まれています。

出典：  
 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「吉野川水系吉野川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）」（2016年6月13日）  
 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「吉野川水系吉野川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）」（2016年6月13日）  
 国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「吉野川水系旧吉野川・今切川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）」（2016年6月13日）  
 徳島県「勝浦川水系勝浦川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：氾濫流）」（2018年5月29日）  
 徳島県「勝浦川水系勝浦川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：河岸侵食）」（2018年5月29日）  
 徳島県「吉野川水系園瀬川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：氾濫流）」（2018年5月29日）  
 徳島県「吉野川水系園瀬川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：河岸侵食）」（2018年5月29日）  
 徳島県「吉野川水系飯尾川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：氾濫流）」（2019年8月27日）  
 徳島県「吉野川水系飯尾川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：河岸侵食）」（2019年8月27日）  
 徳島県「吉野川水系鮎喰川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：氾濫流）」（2019年8月27日）  
 徳島県「吉野川水系鮎喰川 洪水浸水想定区域図（家屋倒壊等氾濫想定区域：河岸侵食）」（2019年8月27日）  
 ※居住促進区域は現行計画の区域

■家屋倒壊等氾濫想定区域の指定状況

想定最大規模（L2）



# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

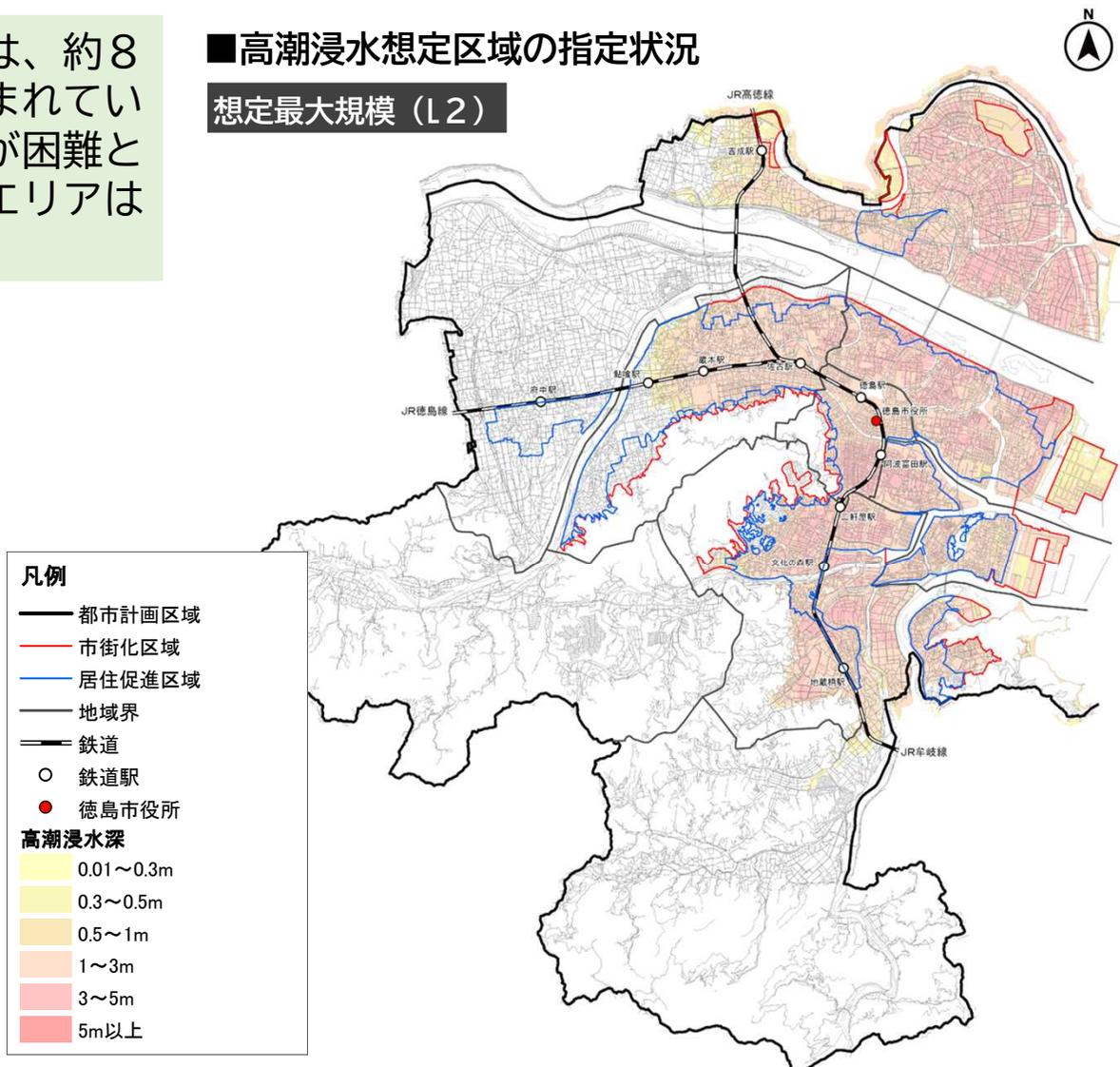
## (2) 災害特性

### ② 高潮：高潮浸水想定区域

- 居住促進区域においては、約8割が浸水想定区域に含まれています。また、垂直避難が困難となる浸水深3m以上のエリアは約2割を占めています。

■高潮浸水想定区域の指定状況

想定最大規模 (L2)



出典：  
 徳島県「徳島県高潮浸水想定区域図（想定最大規模）（浸水区域及び浸水深）」（2020年9月1日）  
 徳島県「徳島県高潮浸水想定区域図（想定最大規模）（浸水区域及び浸水深）（紀伊水道西沿岸）」（2020年9月1日）  
 ※居住促進区域は現行計画の区域

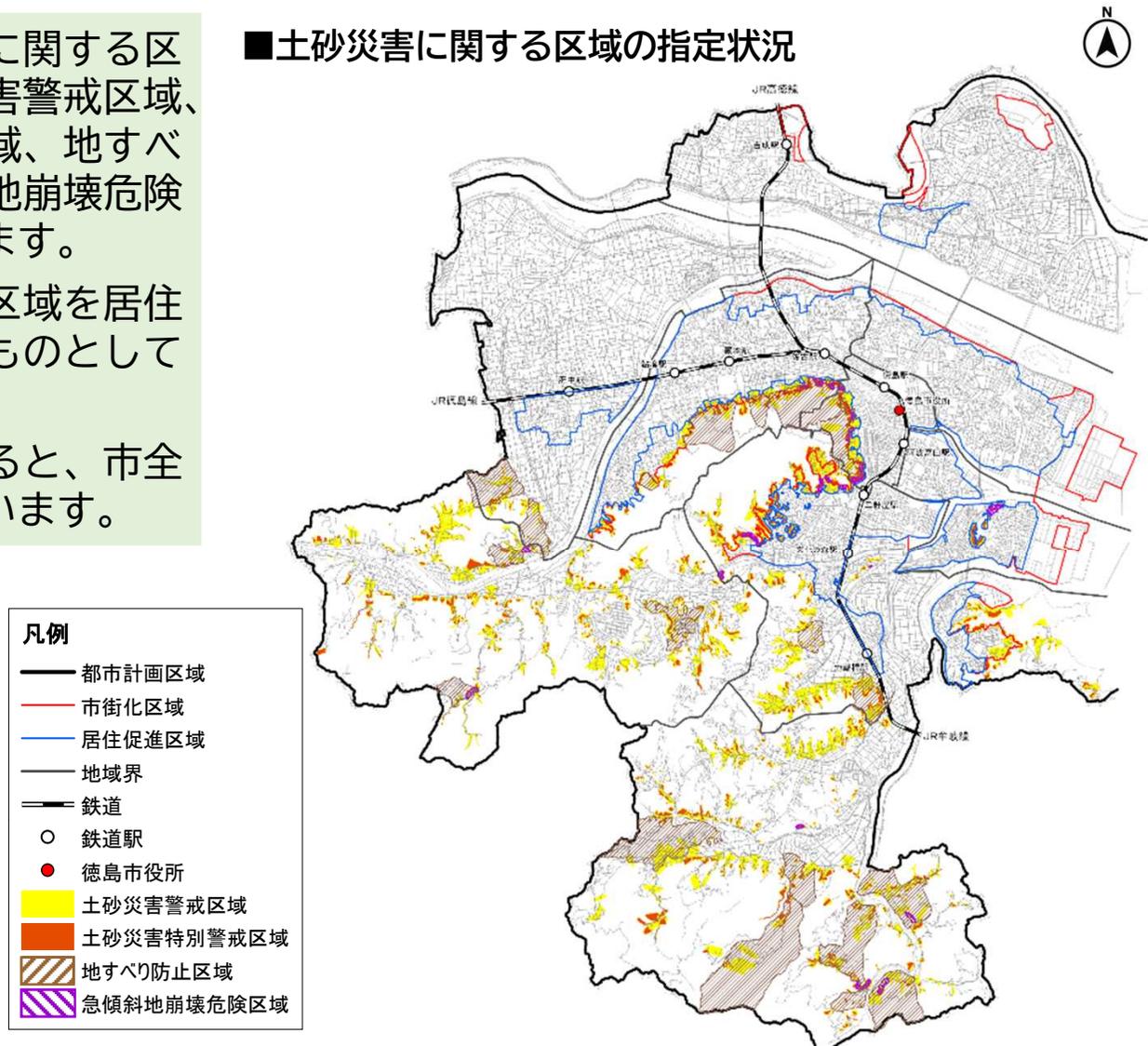
# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (2) 災害特性

### ③ 土砂災害：土砂災害に関する区域

- 本市では、土砂災害に関する区域について、土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域が指定されています。
- 本市では、これらの区域を居住促進区域に含まないものとしています。
- 区域の指定状況を見ると、市全域の約2割となっています。

■土砂災害に関する区域の指定状況



出典：  
土砂災害（特別）警戒区域/徳島県「徳島県水防・砂防情報マップ」（2022年3月31日）  
地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域/徳島県「徳島県水防・砂防情報マップ」（2022年9月3日）  
※居住促進区域は現行計画の区域

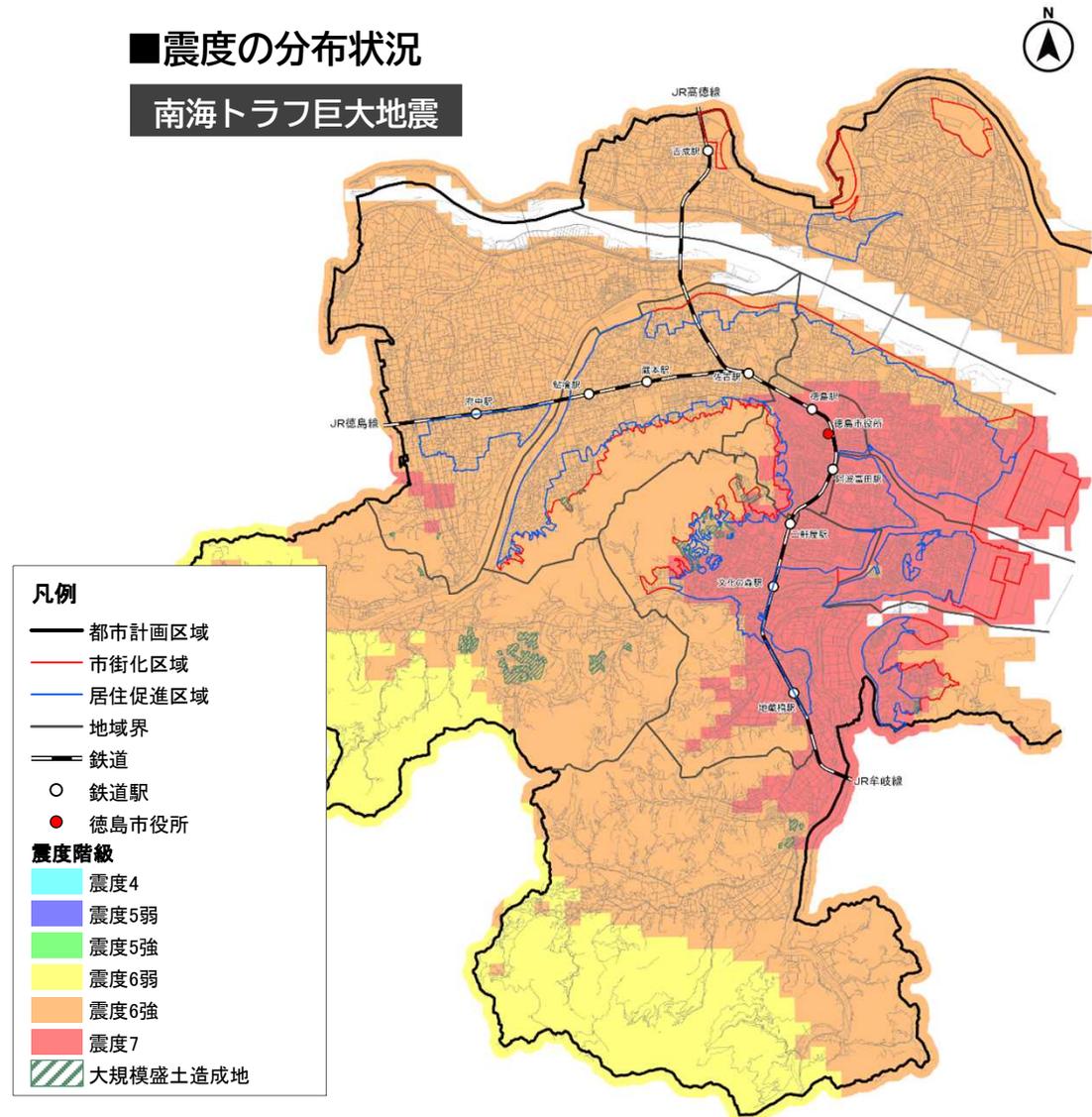
# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (2) 災害特性

### ④ 地震：震度分布

- 南海トラフ巨大地震では、震度7のエリアが市全域の約2割、震度6強のエリアが約6割と市全域の約8割で強い揺れが想定されています。
- 居住促進区域においては、南海トラフ巨大地震では震度7のエリアが5割以上を占めています。
- また、大規模盛土造成地が分布する箇所においても、大きな揺れが想定されており、宅地滑動崩落のおそれがあります。

出典：  
震度分布（南海トラフ巨大地震）/徳島県「徳島県オープンデータポータル」（2017年9月29日）  
大規模盛土造成地/徳島県県土整備部都市計画課「大規模盛土造成地マップ」（2015年3月）  
※居住促進区域は現行計画の区域



### 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

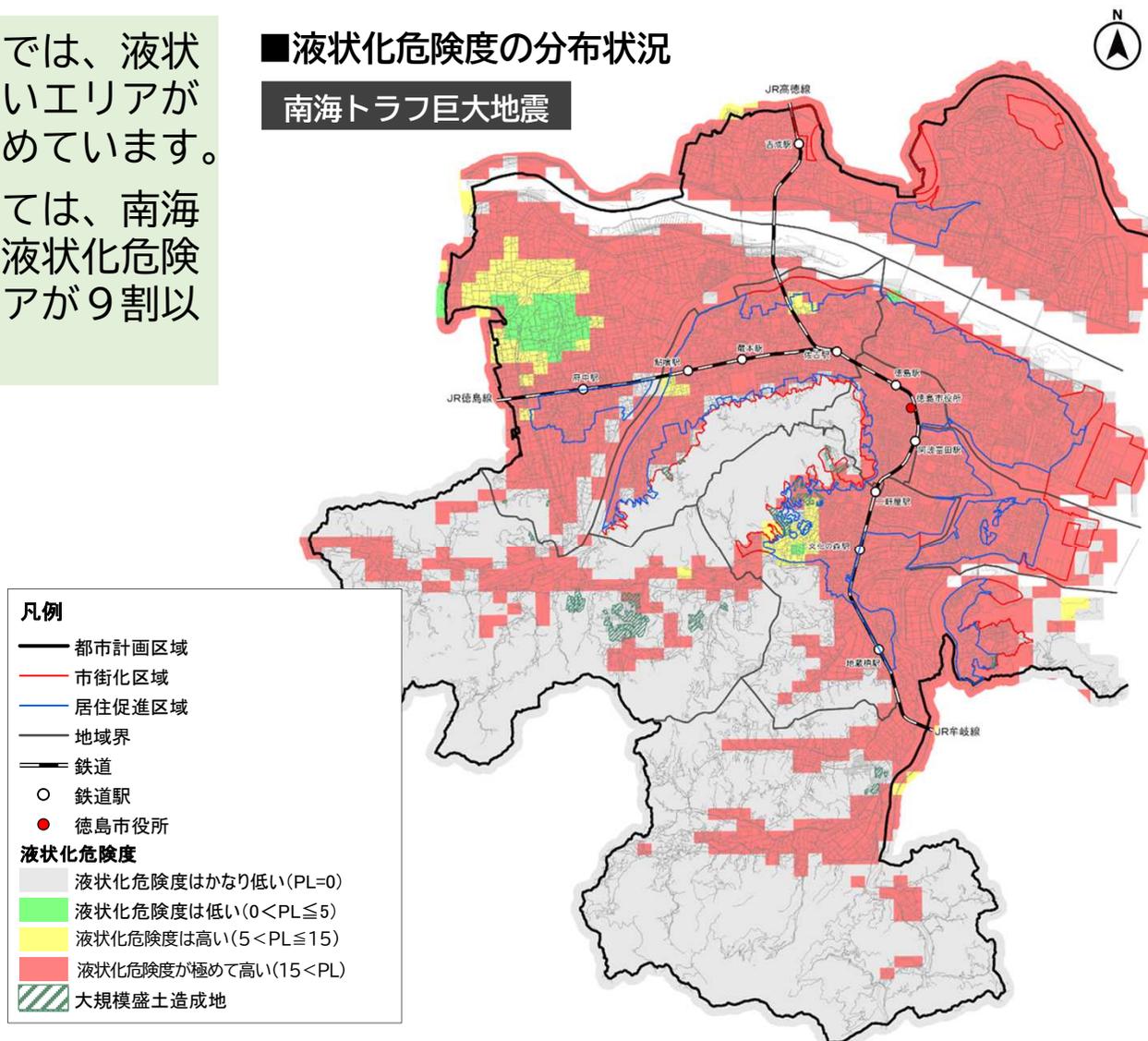
#### (2) 災害特性

##### ⑤ 液状化：液状化危険度

- 南海トラフ巨大地震では、液状化危険度の極めて高いエリアが市全域の約5割を占めています。
- 居住促進区域においては、南海トラフ巨大地震では液状化危険度の極めて高いエリアが9割以上を占めています。

■液状化危険度の分布状況

南海トラフ巨大地震



出典：  
液状化危険度（南海トラフ巨大地震）/徳島県「徳島県オープンデータポータル」（2017年9月29日）  
大規模盛土造成地/徳島県県土整備部都市計画課「大規模盛土造成地マップ」（2015年3月）  
※居住促進区域は現行計画の区域

### 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

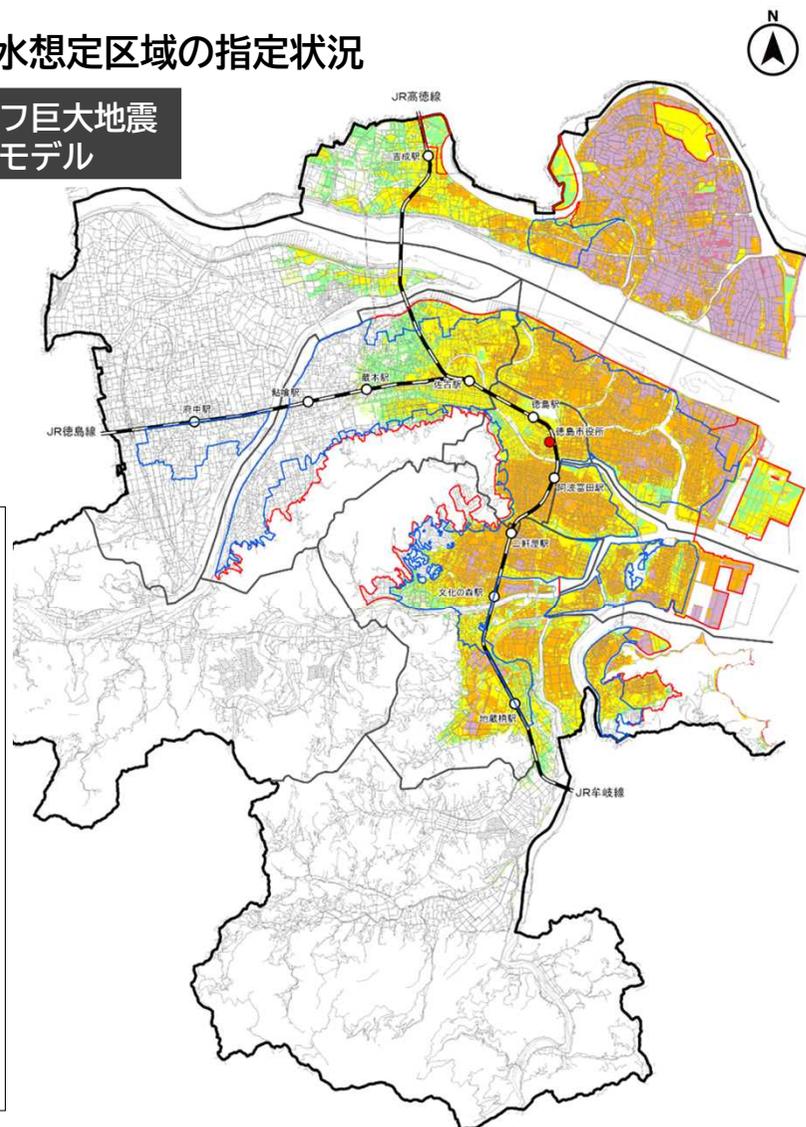
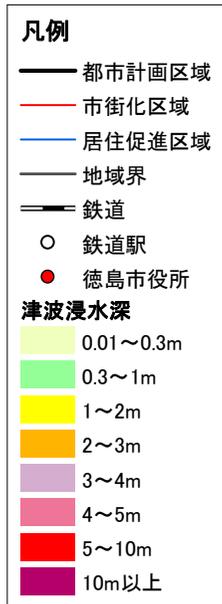
#### (2) 災害特性

##### ⑥ 津波：津波浸水想定区域

- 沿岸部を中心に市街地の広い範囲が浸水想定区域であり、浸水深が3mを超えるエリアが沿岸部と吉野川左岸側の川内町を中心に広がっています。
- 居住促進区域においては、木造建築物の全壊のおそれがある浸水深2m以上のエリアは約4割を占めています。

■津波浸水想定区域の指定状況

南海トラフ巨大地震  
震源モデル



出典：徳島県「徳島県オープンデータポータル」（2017年9月29日）  
※居住促進区域は現行計画の区域

# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

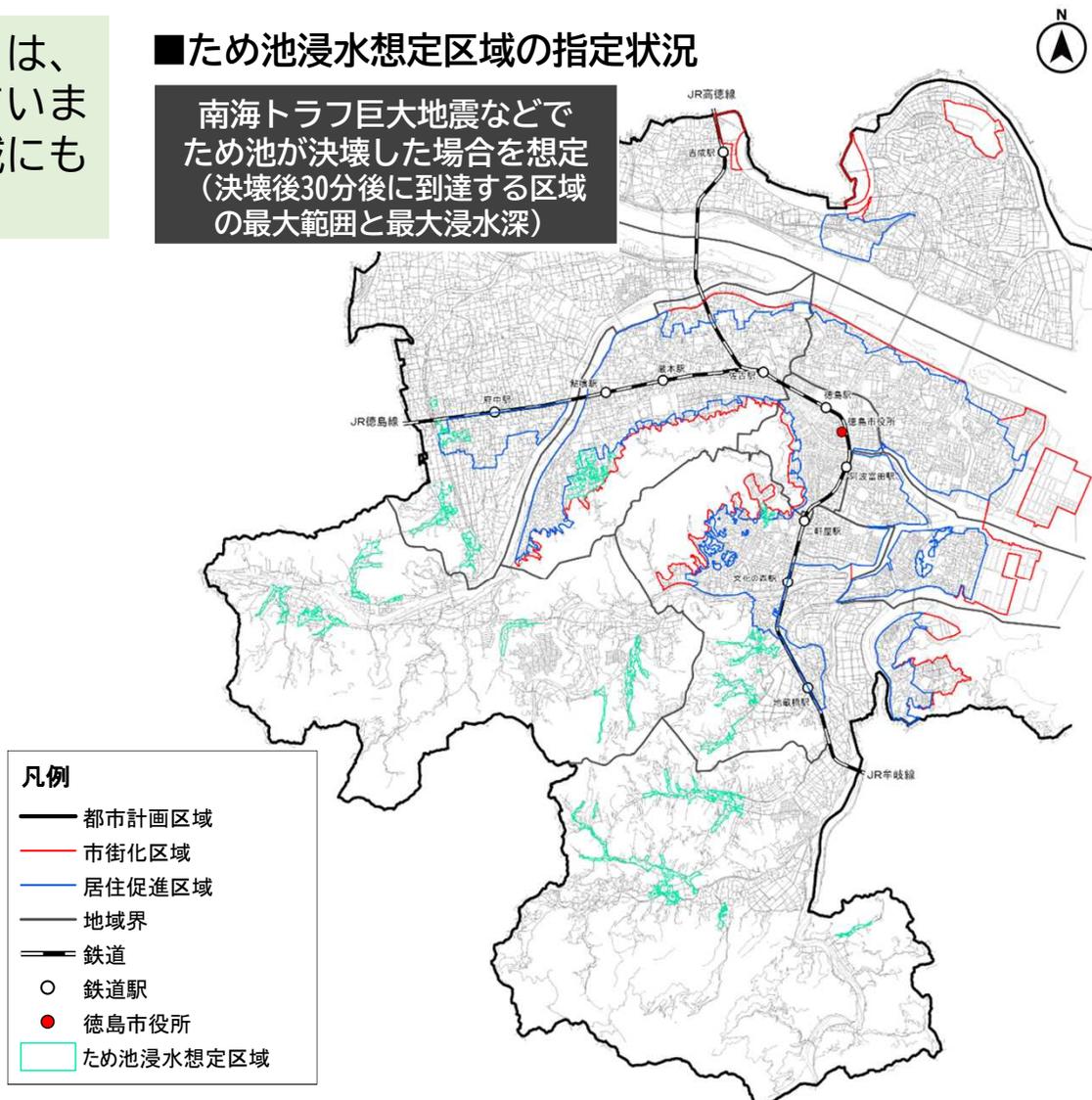
## (2) 災害特性

### ⑦ たため池氾濫：たため池浸水想定区域

- たため池浸水想定区域の多くは、居住促進区域外に分布していますが、一部、居住促進区域にも含まれています。

#### ■たため池浸水想定区域の指定状況

南海トラフ巨大地震などでたため池が決壊した場合を想定（決壊後30分後に到達する区域の最大範囲と最大浸水深）



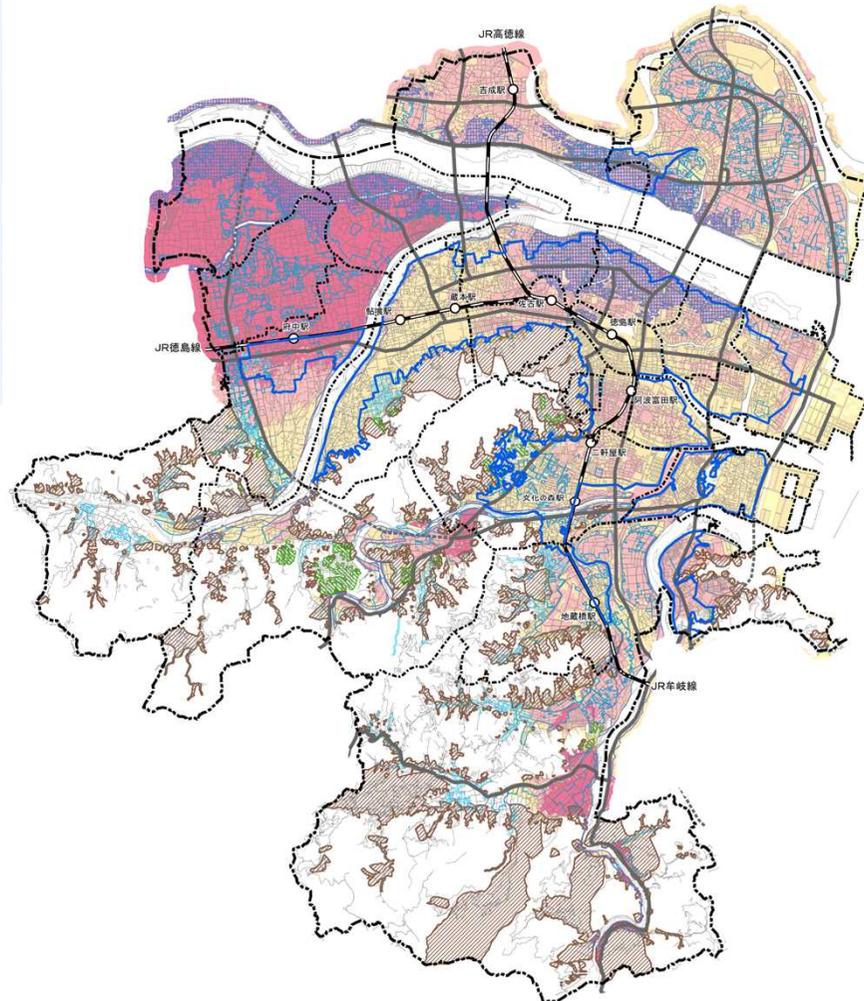
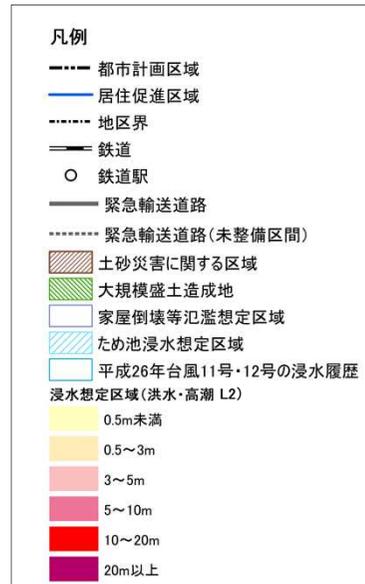
出典：  
徳島市耕地課「徳島市たため池ハザードマップ」（2016年3月、  
2019年9月、2020年10月）  
※居住促進区域は現行計画の区域

# 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

## (3) まとめ

### I. 台風や大雨を起因とした災害（洪水、高潮、土砂災害、ため池氾濫）

- 地域特性として、市街地が一級河川吉野川の氾濫平野に形成され、既に都市機能や居住人口が集積しており、台風や大雨を起因とする被害を完全に排除することは難しい地形条件となっています。

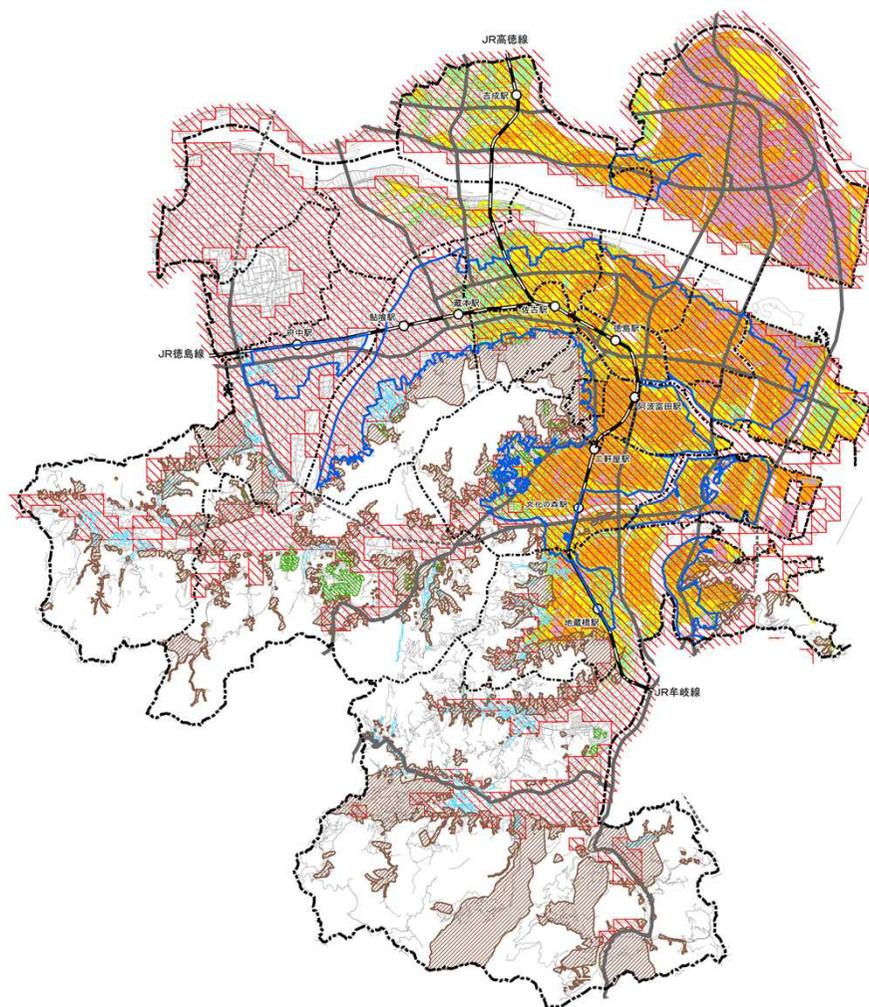
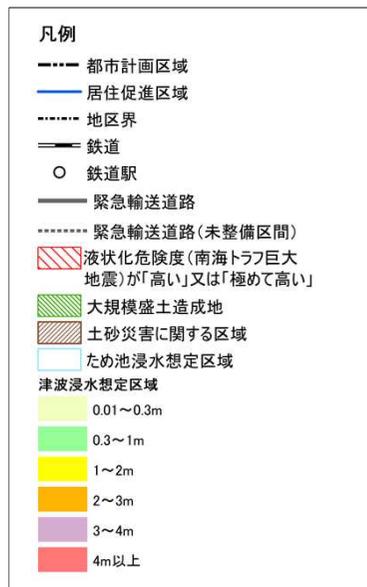


### 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

#### (3) まとめ

#### Ⅱ. 地震を起因とした災害（地震、土砂災害、液状化、津波、ため池氾濫）

- 地震を起因とする被害についても、南海トラフ巨大地震が発生した場合に、市全域で震度6以上の強い揺れが想定されるほか、津波浸水想定区域も市街地の広い範囲に広がっています。



### 3. 徳島市が抱える防災上の課題【マクロ分析】

#### (4) 居住促進区域の設定における災害リスクの高いエリアの取扱い

種別	災害リスクの高いエリア	都市計画運用指針における位置づけ	本市の方針
土砂災害	土砂災害特別警戒区域	居住促進区域に含まない	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ <u>居住促進区域から除外</u>します。</li> </ul>
	地すべり防止区域	<b>(災害レッドゾーン)</b> ※ 住宅等の建築や開発行為等に規制がある区域。	
	急傾斜地崩壊危険区域		
	土砂災害警戒区域	警戒体制や防災・減災施設の整備状況などを総合的に勘案し、居住を誘導することが適当でないと判断される場合は原則として含まない	
津波	津波浸水想定区域		<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市街化区域においても大部分で津波や洪水による浸水が想定されていますが、これらの区域内には、すでに都市基盤が整備され、一定規模の人口密度を有していることから、浸水想定区域全てを居住促進区域から除外することは現実的ではありません。</li> </ul>
	津波災害警戒区域		
洪水	洪水浸水想定区域	<b>(災害イエローゾーン)</b> ※ 建築や開発行為等の規制はなく、区域内の計画避難体制の整備などが求められる区域。	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 警戒体制の強化や緊急避難場所の指定・拡充及び周知徹底、各地区ごとの避難計画の作成と訓練の実施等を進めることにより、事前の避難が可能と考えられます。</li> <li>➢ そのため、<u>居住促進区域から除外せず、人命を守るための避難を軸とした防災対策を進めます。</u></li> </ul>
	家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）		
	家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）		
高潮	高潮浸水想定区域		
ため池	ため池浸水想定区域	—	
その他	大規模盛土造成地	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 大規模盛土造成地は、過去の地震では滑動崩落により多くの宅地被害が発生しました。しかし、地震発生時に必ずしも危険ということではないため、<u>居住促進区域から除外せず、危険性の周知や安全性の確認を進めます。</u></li> </ul>

## 4. まちづくりにおける防災上の対応方針

- 徳島市が抱える防災上の課題を踏まえて、まちづくりの方針①～③に沿った、まちづくりにおける防災上の対応方針を定めます。

### 徳島市が抱える防災上の課題

- I. 市街地が一級河川吉野川の氾濫平野に形成され、既に都市機能や居住人口が集積しており、台風や大雨を起因とする被害を完全に排除することは難しい地形条件となっています。
- II. 地震を起因とする被害についても、南海トラフ巨大地震が発生した場合に、市全域で震度6以上の強い揺れが想定されるほか、津波浸水想定区域も市街地の広い範囲に広がっています。

### まちづくりにおける防災上の対応方針

- ▶ まちづくりにおける防災上の対応方針を以下のとおりとし、地域の災害特性を踏まえつつ、ハード・ソフト両面からの総合的な防災・減災対策により、災害リスクの回避・低減を図り、被害を最小限に抑えていきます。

総合的な防災・減災対策により、被害を最小限に抑える強靱なまちづくり

## 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

- 「Ⅰ. 台風や大雨を起因とした災害」及び「Ⅱ. 地震を起因とした災害」について、地域の抱える防災上の課題、それに対する取組方針及び具体的な取組をA～Iの9つの地域ごとに整理します。
- 取組方針については、次項の取組方針①～⑩の項目で整理するとともに、「災害リスクの低減」又は「災害リスクの回避」に分類して示します。
- 具体的な取組については、取組の実施時期の目標を、短期（概ね5年以内）、中期（概ね10年以内）、長期（計画期間2040年度（令和22年度）までの17年以内）に区分して整理します。

### ■取組の分類

災害リスクの <b>低減</b>	ハード、ソフト両面から被害を軽減させるための取組
災害リスクの <b>回避</b>	災害時に被害が発生しないようにする（回避する）ための取組

## 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

### ■取組方針の項目

No	取組方針	取組の分類	具体的な取組	ハード/ソフト
①	避難行動の迅速化のための災害情報の収集・発信	低減	無線機等の整備による情報収集・伝達手段の確保	ソフト
		低減	災害用映像情報収集ネットワークの整備・運用	ソフト
		低減	避難支援マップの作成支援	ソフト
②	地域の防災力の強化	低減	地域防災力向上のための自主防災組織活動促進	ソフト
		低減	全世代を対象とした防火・防災意識の普及啓発	ソフト
		低減	市民の救命・救急知識の向上	ソフト
		低減	市民総合防災訓練の実施	ソフト
		低減	防災サポーターの登録育成	ソフト
③	避難環境の整備・充実	低減	津波避難ビル・緊急避難場所の指定拡充	ソフト
		低減	地区別津波避難計画作成支援	ソフト
		低減	地域への避難行動要支援者名簿の提供及び個別計画作成の推進	ソフト
		低減	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進	ソフト
		低減	災害種別図記号による避難場所標識板の設置	ソフト
④	国・県・市の連携による流域治水の取組	低減	雨水貯留施設の整備	ハード
		低減	排水機場・水路の整備	ハード
		低減	河道掘削、堤防整備等（吉野川流域）	ハード
		低減	河道掘削、堤防整備等（勝浦川流域）	ハード
		低減	都市浸水対策	ハード
⑤	道路の防災機能強化	低減	都市計画道路の整備（事業中のみ記載）	ハード
		低減	緊急輸送道路等における橋りょうの耐震化	ハード
		低減	無電柱化の促進	ハード
		低減	老朽建築物の安全対策（除却）の促進	ハード
⑥	住宅の耐震化・安全対策	低減	既存木造住宅の耐震化	ハード
⑦	下水道の防災性強化	低減	下水道ポンプ場の地震対策	ハード
⑧	上水道の防災性強化	低減	水道施設の耐震化	ハード
⑨	防災拠点の整備・機能強化	低減	徳島市本庁舎の浸水対策	ハード
		低減	徳島市危機管理センター（仮称）の整備	ハード
⑩	リスク回避のための土地利用の推進	回避	市街化調整区域の「災害リスクの高いエリア」における開発行為の原則禁止または厳格化	ソフト

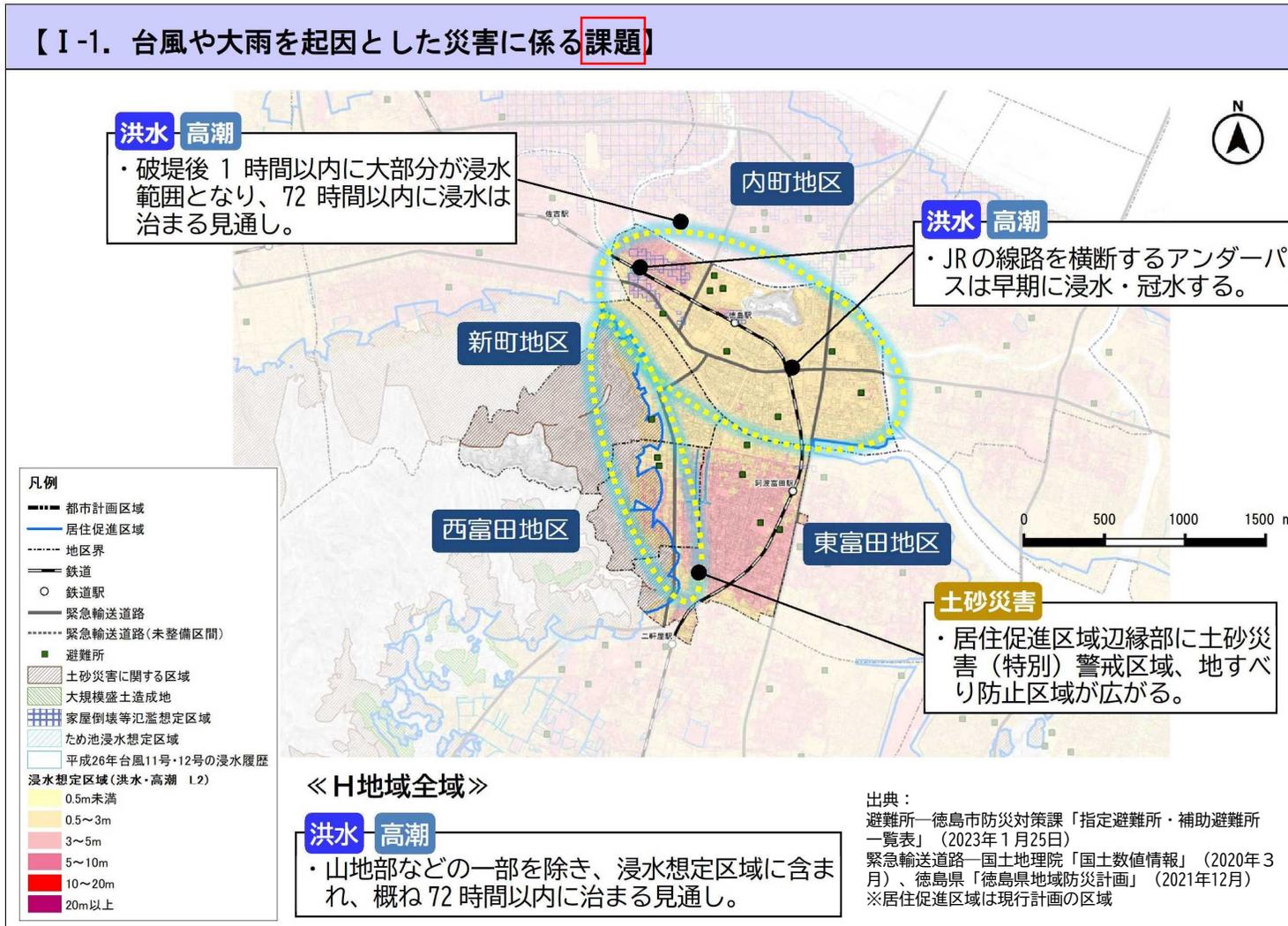
# 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

H地域  
(内町・新町・東富田・西富田)

I. 台風や大雨を起因とした災害  
(洪水、高潮、土砂災害、ため池氾濫)

## 【I-1. 台風や大雨を起因とした災害に係る課題】



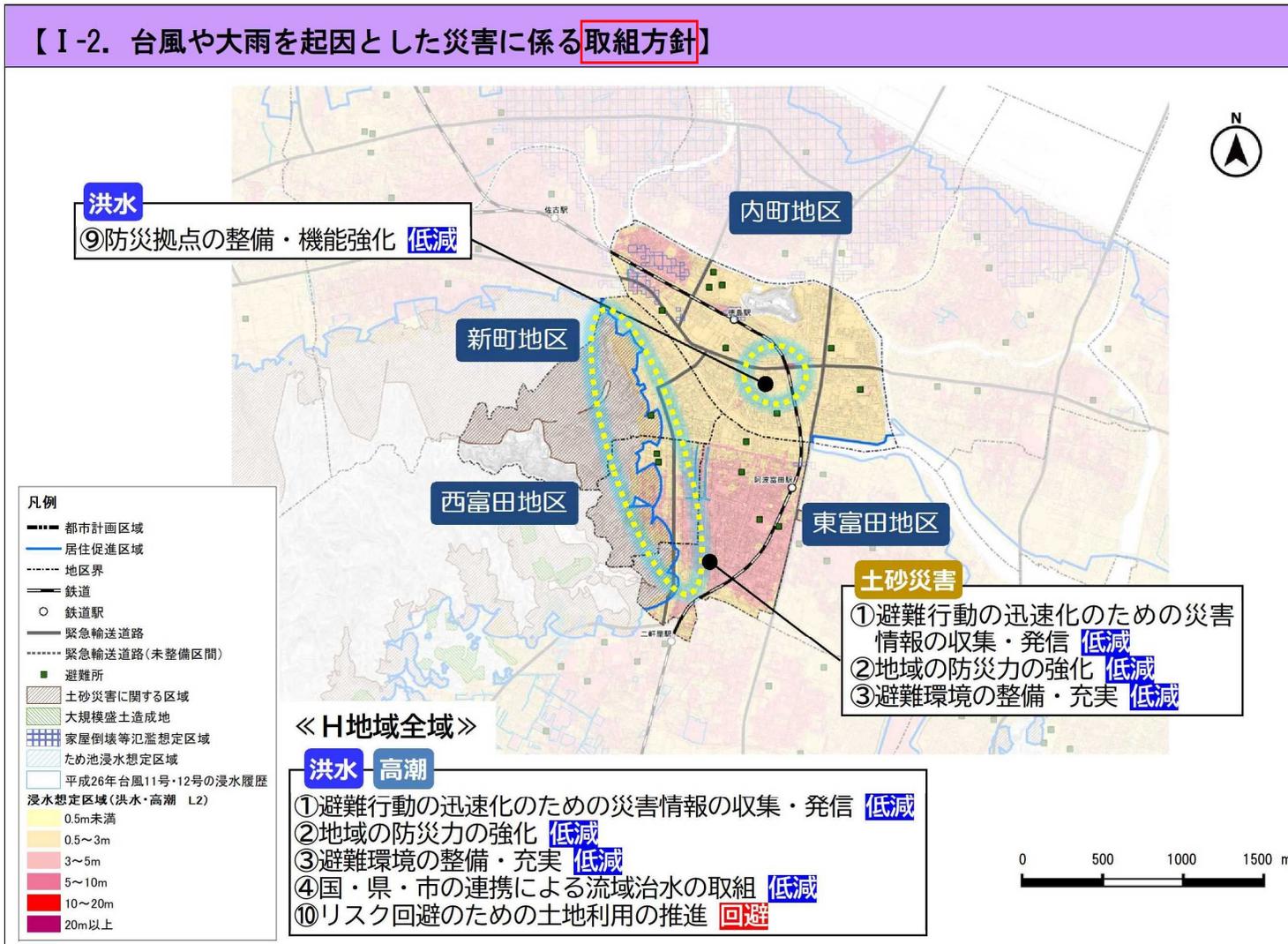
# 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

**H地域**  
(内町・新町・東富田・西富田)

**I. 台風や大雨を起因とした災害**  
(洪水、高潮、土砂災害、ため池氾濫)

## 【 I-2. 台風や大雨を起因とした災害に係る取組方針】



## 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

H地域 (内町・新町・東富田・西富田)	I. 台風や大雨を起因とした災害 (洪水、高潮、土砂災害、ため池氾濫)
------------------------	--

### ■【I-3. 台風や大雨を起因とした災害に係る具体的な取組】

取組方針	低減 / 回避	具体的取組	実施 主体	実施時期の目標		
				短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (~17年)
①避難行動の迅速化のための災害情報の収集・発信	低減	無線機等の整備による情報収集・伝達手段の確保	市	→		
	低減	災害用映像情報収集ネットワークの整備・運用	市	→		
	低減	避難支援マップの作成支援	市	→		
②地域の防災力の強化	低減	地域防災力向上のための自主防災組織活動促進	市	→		
	低減	全世代を対象とした防火・防災意識の普及啓発	市	→		
	低減	市民の救命・救急知識の向上	市	→		
	低減	市民総合防災訓練の実施	市	→		
	低減	防災サポーターの登録育成	市	→		
③避難環境の整備・充実	低減	津波避難ビル・緊急避難場所の指定拡充	市	→		
	低減	地域への避難行動要支援者名簿の提供及び個別計画作成の推進	市	→		
	低減	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進	市	→		
	低減	災害種別図記号による避難場所標識板の設置	市	→		
④国・県・市の連携による流域治水の取組	低減	雨水貯留施設の整備	市	→		
	低減	排水機場・水路の整備	市	→		
	低減	河道掘削、堤防整備等(吉野川流域)	国・県	→		
	低減	都市浸水対策	市	→		
⑨防災拠点の整備・機能強化	低減	徳島市本庁舎の浸水対策	市	→		
	低減	徳島市危機管理センター(仮称)の整備	市	→		
⑩リスク回避のための土地利用の推進	回避	市街化調整区域の「災害リスクの高いエリア」における開発行為の原則禁止または厳格化	市	→		

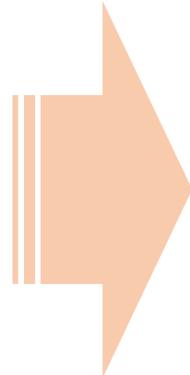
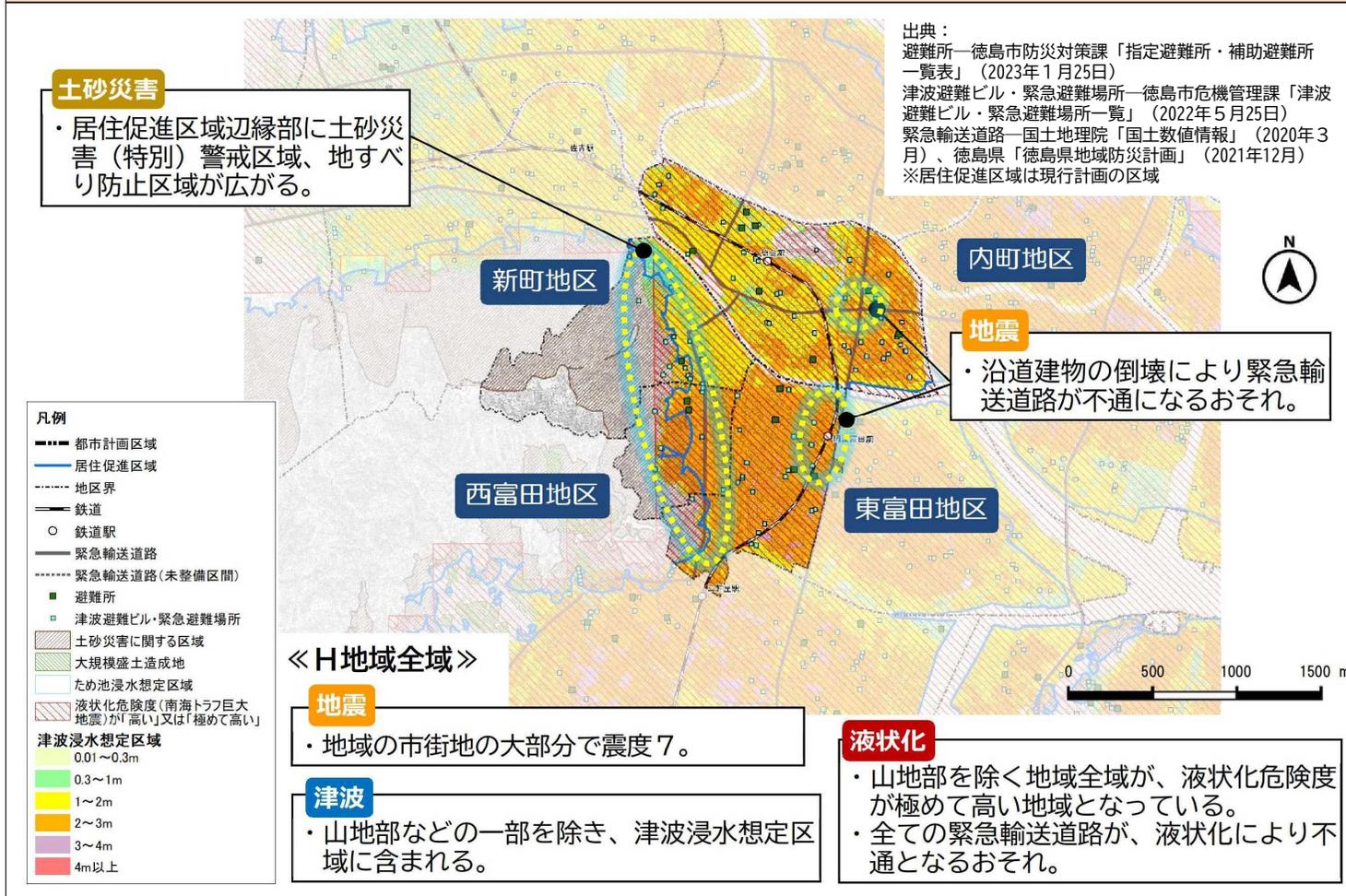
# 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

**H地域**  
(内町・新町・東富田・西富田)

**Ⅱ. 地震を起因とした災害**  
(地震、土砂災害、液状化、津波、ため池氾濫)

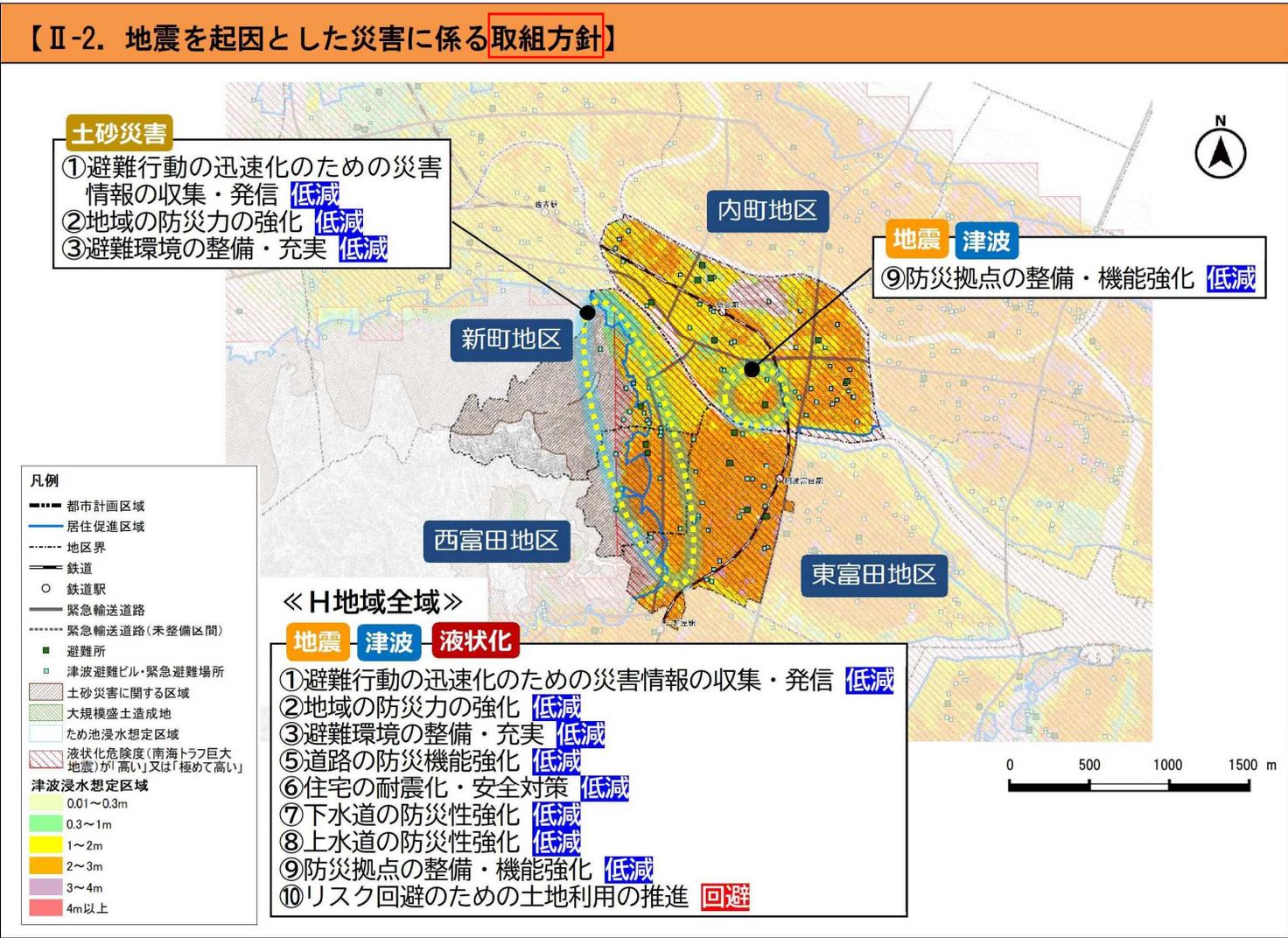
## 【Ⅱ-1. 地震を起因とした災害に係る課題】



# 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

<b>H地域</b> (内町・新町・東富田・西富田)	<b>Ⅱ. 地震を起因とした災害</b> (地震、土砂災害、液状化、津波、ため池氾濫)
-------------------------------	--



## 5. 各地域の防災上の課題【ミクロ分析】を踏まえた取組方針・具体的な取組

例

H地域 (内町・新町・東富田・西富田)	II. 地震を起因とした災害 (地震、土砂災害、液状化、津波、ため池氾濫)
------------------------	--

### ■【II-3. 地震を起因とした災害に係る具体的な取組】

取組方針	低減 / 回避	具体的な取組	実施 主体	実施時期の目標		
				短期 (~5年)	中期 (~10年)	長期 (~17年)
①避難行動の迅速化のための災害情報の収集・発信	低減	無線機等の整備による情報収集・伝達手段の確保	市	→	→	→
	低減	災害用映像情報収集ネットワークの整備・運用	市	→	→	→
	低減	避難支援マップの作成支援	市	→	→	→
②地域の防災力の強化	低減	地域防災力向上のための自主防災組織活動促進	市	→	→	→
	低減	全世代を対象とした防火・防災意識の普及啓発	市	→	→	→
	低減	市民の救命・救急知識の向上	市	→	→	→
	低減	市民総合防災訓練の実施	市	→	→	→
③避難環境の整備・充実	低減	防災サポーターの登録育成	市	→	→	→
	低減	津波避難ビル・緊急避難場所の指定拡充	市	→	→	→
	低減	地区別津波避難計画作成支援	市	→	→	→
	低減	地域への避難行動要支援者名簿の提供及び個別計画作成の推進	市	→	→	→
⑤道路の防災機能強化	低減	要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進	市	→	→	→
	低減	災害種別図記号による避難場所標識板の設置	市	→	→	→
	低減	緊急輸送道路等における橋りよの耐震化	市	→	→	→
⑥住宅の耐震化・安全対策	低減	無電柱化の促進	市	→	→	→
	低減	老朽建築物の安全対策（除却）の促進	市	→	→	→
	低減	既存木造住宅の耐震化	市	→	→	→
⑦下水道の防災性強化	低減	下水道ポンプ場の地震対策	市	→	→	→
⑧上水道の防災性強化	低減	水道施設の耐震化	市	→	→	→
⑨防災拠点の整備・機能強化	低減	徳島市本庁舎の浸水対策	市	→	→	→
	低減	徳島市危機管理センター（仮称）の整備	市	→	→	→
⑩リスク回避のための土地利用の推進	回避	市街化調整区域の「災害リスクの高いエリア」における開発行為の原則禁止または厳格化	市	→	→	→

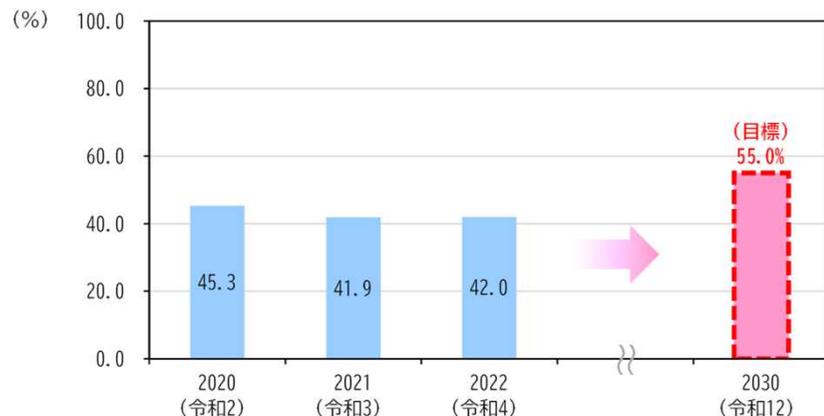
## 6. 防災指針における目標値

- 防災指針に則り、各地域において具体的な取組を進めた効果を定量的に評価するため、上位計画である「徳島市総合計画2021」と整合を図り、防災まちづくりに係る評価指標を設定します。
- 目標年次は、短期・中期的な目標として、2030年（令和12年）とします。

評価指標		現状（2022年）	目標（2030年）	評価・算出方法
1	災害への備えが整っていると 感じる市民の割合（%）	42.0%	55.0%	市民満足度調査結果 から把握します。
2	水害への備えが整っていると 感じる市民の割合（%）	43.4%	52.0%	

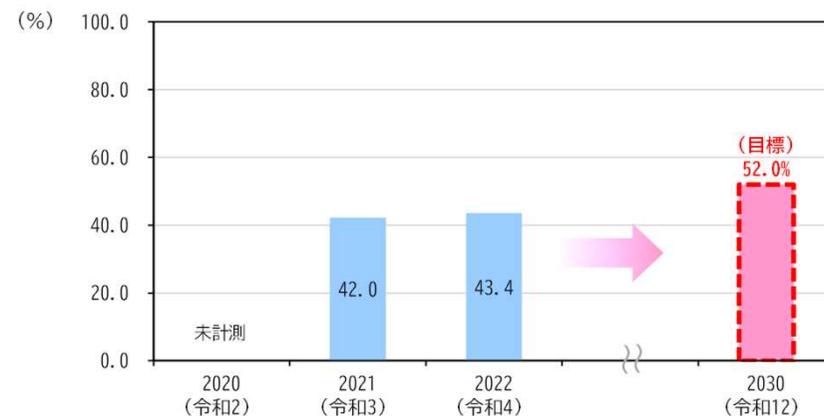
※「令和5年度版徳島市総合計画2021 ―水都とくしま「新創造」プラン―」における目標値

### ■評価指標1： 災害への備えが整っていると 感じる市民の割合



出典：市民満足度調査結果

### ■評価指標2： 水害への備えが整っていると 感じる市民の割合



出典：市民満足度調査結果